

令和 5 年度
教職課程

自己点検・評価報告書

共立女子大学

令和 6 年 6 月

共立女子大学 教職課程認定学部・学科(免許校種・免許教科)一覧

- ・家政学部(被服学科(中・高 家庭)、食物栄養学科(中・高 家庭、栄養)、児童学科(幼・小))
- ・文芸学部(文芸学科(中・高 国語、英語、高 情報))
- ・国際学部(国際学科(中・高 英語、中 社会、高 地歴 公民))
- ・家政学研究科 被服学専攻、食物学専攻、建築・デザイン専攻
(中学校専修・高等学校専修 家庭)、児童学専攻(幼稚園専修)
- ・文芸学研究科(中学校専修・高等学校専修 国語、英語)
- ・国際学研究科(中学校専修・高等学校専修 英語、社会、地歴)

大学としての全体評価

共立女子大学は、明治19(1886)年に先覚者34人が発起人となり、女性に専門的知識と高度の技能を修得させ、女性の自主性と社会的自立を育成することを目的として創立された共立女子職業学校を母体としている。設立趣意書には、「女子の職業学校を設け、専女子に適する諸の職業を授け」という設置の理念が記されており、「設置願」及びその趣旨に基づいて作られた「共立女子職業学校規則摘要」によれば、「女子に適する諸職業を授け広く世の婦女子に実業を得しめんとする」という設置の目的が記されている。教員養成は創設の初期から行われており「婦女子に実業を」との目的を掲げて以来130年以上にわたり多くの教員を輩出している。

現在、3研究科および3学部により幼、小、中、高と一通りの校種教員免許状の取得が可能であり、それぞれの研究科専修および学部学科ごとに、幼稚園、小学校、中学校(家庭、国語、英語、社会)、高校(家庭、国語、英語、地歴、公民)、栄養の各免許状を取得することができる。

教員養成は、開放制であり、教職課程の授業は異学部間の学生が混在し履修する。そのため授業は、異なる専門を専攻する学生が交流し、互いに尊重し合いながら学びを深めている。よって、異なる視点や分野にふれ合いながら広い視野で教育について考え研鑽し、豊かな見識を涵養する機会にもなっている。これは、共立女子大学が130年の歴史の中で築いた総合大学としての特色が反映されているものである。

共立女子学園では2022年中期計画より「リーダーシップの共立」を掲げ、大学のみならず各設置校を上げて邁進している。学園が掲げる「リーダーシップ」とは具体的には、特定の少数者がリーダーシップを発揮するだけでなく、一人ひとりが主体性を持ち、全員がその場その場に応じて多様な想像力と発想を持ってリーダーシップを発揮することとしている。この「リーダーシップの共立」は教員の養成の目的であることはもとより、本来教員としての大切な資質でもあり、総合大学教職課程の特

色から異学部間交流が生まれ専攻を超えて切磋琢磨できる授業の中で、大いに育むことができる点が強みと言える。

以上のように伝統と新しいビジョンのもと、共立女子大学教職課程は「婦女子に実業」「リーダーシップの共立」の双方を具現化する中核ともいえる課程であるが、昨今の教職課程履修者の減少、および教職課程を修めても教職につかないという現状は、改善しなければならない点である。したがって、専攻を超えて広い視野で教育について研鑽し、多様な想像力と発想を持ってリーダーシップを発揮しつつ、教員免許状の取得に至り、なおかつ教員への就職を希望する学生を増加させることが課題である。

共立女子大学

学長 堀 啓二

目次

I 教職課程の現況及び特色	1
II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	11
基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	17
III 総合評価(全体を通じた自己評価)	24
IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	25
V 現況基礎データ一覧	26

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名: 共立女子大学
- (2) 学部名: 家政学部、文芸学部、国際学部
- (3) 所在地: 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1
- (4) 学生数及び教員数

(令和6年5月1日現在)

学生数

学部	学生数	教職課程履修数
家政学部	1685	736
文芸学部	1483	195
国際学部	1074	203
家政学研究科	16	0
文芸学研究科	12	0
国際学研究科	5	0

※家政学部児童学科は1年次を除く

専任教員数:

学部	学部全体	教職課程科目担当 (教職・教科)
家政学部	46	3
文芸学部	36	6
国際学部	25	1

※看護学部、ビジネス学部、建築・デザイン学部は教職課程認定を受けていないため、表中には記載していない。

2 特色

共立女子大学では、建学の精神である「女性の自立と自活」と校訓「誠実・勤勉・友愛」を基本理念として、全学及び各学部の人材養成目的が定められている。これらの目的とそれに連なるディプロマ・ポリシー(以下:DP)、カリキュラム・ポリシー(以下:CP)に基づき、幅広く深く教養と専門学問分野における高度な知識・技能、そして実社会における諸課題について対処できる総合的な思考力・判断力を身に付け導くリーダーシップ精神と誠実で豊かな人間性を備えた教員の養成を目的としている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

本学は共立女子職業学校創設の初期から教員養成が行われてきたが、周年史誌を紐解いても〈教員養成目標〉は設定されることがないままであった。しかし、前回の自己点検評価以降、教職課程分科会で「教員養成目標」を協働策定し内外へ公開している。(資料1-1-1)

家政学部被服学科、食物栄養学科ではこの目標は全学部共通の目標とともに各学部、学科、専攻、免許教科ごとに策定されており、依拠するものは本学及び家政学部被服学科、食物栄養学科の人材養成目的、DP、CPである。これらは基本的には教職課程に関するガイダンスや初回授業時に学生に周知されている。

また、前回の自己点検評価以降、DPやCPに沿ったカリキュラムマップやツリー、履修系統図も教職課程分科会で確認し共有した。(資料1-1-2)シラバス(資料1-1-3、1-1-4)では初回授業に到達目標、カリキュラムマップや履修系統図上の位置づけを説明することを明記することになっており、教職課程分科会委員による非常勤を含めたすべての教職関連科目を対象に、協働でシラバスチェックを行い確認しあっている。このシラバスチェック作業の過程は、他の教職関連科目の教育目的・目標を知るよい機会になっている。

文芸学部では教職課程教育に対する全学部共通の目的および各学部と各教科の目標は本学ホームページ(以下:HP)にて公表している。(資料1-1-1)加えて、学生にはオリエンテーション期間に実施する「教職課程ガイダンス」にて周知すると共に、1年次必修科目である「教職入門」で説明している。

国際学部では、教職課程について学部のDP、CPに基づき、中学校・高等学校教諭の教員養成目標を設定し、免許教科「英語」「社会」「地理歴史」「公民」について目指す教師像を本学HPに掲載、大学内外に情報を周知している。(資料1-1-1)また、専任教員のほぼ全員(1名除く)が、免許教科「英語」「社会」「地理歴史」「公民」の「教科に関する科目」あるいは教育職員免許法第66条の6指定の授業科目を担当し、全学部体制で教員養成に取り組んでいる。4年次実施の教育実習では、教職課程専任教員から教授会でその趣旨説明と訪問指導の依頼、学生の他授業欠席がアナウンスされ、同教員や各学生の卒業ゼミナール担当教員が、教育実習校(東京都内)への訪問指導を実施し学生の授業を参観して、学部教育の学修成果を確認している。

初等教育課程の児童学科では幼稚園教諭及び小学校教諭の養成を主目的としている。そのため、学科で設定している「卒業認定・学位授与の方針」(DP)及び「教育課程編成・実施の方針」(CP)は、教職課程教育の目的・目標に沿ったものとなっている。学科で設定したDP、DP及び育成を目指す

教師像(人材養成目的)は、履修ガイドや本学 HP 等に掲載されており、年度初めの学科ガイダンス等で確認の場を設けている。

また、DP 及び CP に沿って、カリキュラムマップやカリキュラムツリー、履修系統図を作成し、学科会議等の場において教職員で随時検証・共有をしている。また、各授業の初回において、「到達目標」「カリキュラムマップに記載の DP との対応関係」「履修系統図上の位置付け」を学生に説明したうえで授業を計画的に実施している。また、年に 1 度のシラバスチェックを関係教職員で相互点検するプロセスにおいても、教職課程の目的・目標が再確認されている。

〔優れた取組〕

家政学部では建学の精神並びに3つの徳目に基づき高等教育としての社会的貢献を果たすという理念を具現化した人材養成目的が、大学、大学院、家政学部被服学科、食物栄養学科においてそれぞれ定められている。家政学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「幅広く深い教養、および総合的な判断力を基盤として、生活者の視点から人間生活について広く追究し、現代社会において人々の生活の向上と福祉に貢献する自立した女性を育成すること」であり、それに連なる被服学科の人材養成目的は、「被服学を理論と実践の両面から学ぶことにより、高い専門性を有すると共に、伝統に培われた教育理念を踏まえながら知性と情操とを備え、新しい時代の流れに即応して広く社会的に活動ができる女性を育成すること」である。被服学科の独自性は「伝統に培われた教育理念を踏まえること」にあり、職業人養成を旨とした建学時の精神の延長線上に学科の教職課程が位置することを想起させる。教職課程に関わる教職員は、これら人材養成目的を共通理解し協働的な取り組みを行う際にもその根底に置いており、この分野に関する幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成することを主目的とし社会で活躍できる人材の教育・育成に努めている。

また、食物栄養学科の人材養成目的は、食物学専攻・管理栄養士専攻ともに家政学部の人材養成目的に基づき、「本学科で学ぶ全ての学生に対して社会に通用する広い教養を十分に涵養せしめたうえで、現代の多様な食生活の中にあっても多くの人々がより一層の健康な社会生活が営めることをめざし、食の安全性はもとより、栄養の素材としての食物、並びに食物と健康に関する幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成すること」である。さらに食物学専攻の目的を「本専攻で学ぶ全ての学生に対して社会に通用する広い教養を十分に涵養せしめたうえで、現代の多様な食生活の中にあっても多くの人々が、より一層の健康な社会生活が営めることをめざし、食の安全性はもとより、栄養の素材としての食物、並びに食物と健康に関する幅広い知識とその実践的能力を身につけた女性を育成する」としている。

策定された「教員養成目標」は上記の人材養成目的と DP、CP に基づいており、より一層家政学・被服学・食物栄養学の専門性を活かした家庭科教員、栄養教諭の輩出に貢献できるものとする。

文芸学部では、国語科、英語科、情報科の課程において次の取り組みを行っている。国語科の教職課程は文芸学部にもみ置かれているので、学部の人材育成目的に基づき、国語に限定されることなく、文学と芸術の双方にまたがる広範な教養を身に付けることを前提とした教員養成を行っている。

英語科では担当教員は定期的にさまざまな委員会やワーキンググループに参加し、実現可能な目標を策定することで、指導体制の最適化や教材、授業の改善を行っている。教員と学生にとってより良い教育環境を整え、維持することができるよう、学生が授業や課題、教員や職員、他の学生との交流をどのようにはかっているかを正確に把握することが重要であると考えている。そのため、英語科教育法に現場の教育事情を取り入れるために、訪問指導を行っている。これに加え、担当教員の知識・技能の向上、研究倫理教育及び英語科教育の応用に向けた取り組みを行っている。

情報科は2014年に国内の文化系学部としては稀な課程として設置され、情報科領域の情報科学や教育工学の専門的な知識・方法の修得のみにとどまることなく、さまざまな言語・文学・芸術、さらには文化・メディアに関する、広範な教養と実践的なスキルを身に付けることを通して、高度情報化社会における世界文化的素養と視点をもつ情報文化社会人として、多様化かつ国際化する教育現場に柔軟に対応し、リーダーシップを発揮して活躍できる情報科教員の養成を目標としている。

国際学部では、前期開講の授業科目「基礎ゼミナール」(1年次学生必修)において、学生及び同授業科目担当教員(管理職等を除き、学部教員の半数)対象に卒業生を招いての講演会を開催。教職課程履修の経験を紹介させるなどして、学生の履修への興味・関心を喚起するとともに、教員間の情報共有を徹底している。学部紹介 HP でも、GSE プログラム(Global Studies in English Program 英語による授業科目の履修を卒業要件単位の半分以上とする独自のプログラム)及び教職課程履修の学生へのインタビュー内容、その具体的な学習計画を掲載し、学内外に対して特色ある英語教員養成の仕組みをアピールするとともに、それらを課程再編成のための検討資料に活用している。(資料1-1-5) また、毎年発行する学部の履修案内冊子『リブレット』(1年次学生、学部教員に配布)では、最新の教職課程及び教員採用試験等の情報提供をしている。

初等教育課程である児童学科では、学科の人材養成目的等に関する認識共有について、非常勤講師への周知・共有を行う機会として、毎年2月に情報交換会を実施している。常勤教員と非常勤教員の交流機会を設けるとともに、授業運営やカリキュラム等に関する情報伝達を行っている。

〔改善の方向性・課題〕

中等教育課程では、教員養成目標の策定は行われたが、シラバスにおいての記載や主として非常勤講師への周知・共有を図る必要がある。またシラバスチェック体制は確立しているが、修正・改善が見られないこともあり、さらに情報の伝達・共有を図る必要がある。

初等教育課程の児童学科では学科の人材養成目的等に関する認識共有について、非常勤講師への周知・共有を行う機会として、毎年2月に情報交換会を実施している。常勤教員と非常勤教員の交流機会を設けるとともに、授業運営やカリキュラム等に関する情報伝達を行っている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1:共立女子大学 HP ページ「中学校・高等学校教諭 教員養成目標」
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/culture/purpose/>
- ・資料1-1-2:履修系統図
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2022nendo/risyukeitouzu.kyoshoku.pdf>
- ・資料1-1-3:シラバス_19261 家庭科教育の理論と方法(川上担当)
- ・資料1-1-4:シラバス_19263 家庭科教育の理論と実践(川上担当)
- ・資料1-1-5:「国際学部ニュース 学生広報委員による GSE 履修生へのインタビュー！～教職×GSE～」
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kokusai/news/detail.html?id=4455>

基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

中等教育課程では 2019 年度の法改正に伴う、再課程認定申請承認後も、教職科目及び教科専門科目の必要専任教員数の確保を確認している。

職員の配置状況については、教職課程研究室の解体後、教職課程分科会を主体として運営している。事務職員は専任 1 名、嘱託 1 名が配置されている。教職課程分科会は定期的に行われ、主として中等教職課程、栄養教諭の教職課程における課題を共有している。現時点では中高教職課程と幼小教職課程の全学的な組織は構築されていないものの、児童学科所属教員が中高家庭科の教員免許を担当しているため、幼小教職課程、中高教職課程が相互に共有事項がある場合は「教職課程分科会」と児童学科の橋渡し役を担っている。2023 年度より教養教育科目および教職・資格科目に関する必要な業務を行う組織として共通教育センターが発足しており、上記の連携の強化を図ることを目的に、2024 年度から共通教育センターの下に中等教職課程、栄養教諭の教職課程、および幼稚園・初等教職課程を合わせた拡大教職課程分科会が設置される方向となり、両者の関係をつなぐ機会が得られる。(資料1-2-1)

FD 実施については、全国私立大学教職課程連絡協議会及び関東私立大学教職課程連絡協議会への参加を検討する。各教員が参加している学会等調査を行い、FD 参加状況を確認する。SD 実施については、事務担当者説明会及び各協議会の研修会に出席している。

複数クラス開講で異なる教員が担当している授業には、「生徒指導(進路指導を含む)」、「教育課程の意義と編成」がある。前者では教員間で授業内容や評価基準に関する情報共有が行われているが、それに関して教職課程分科会で共有されてはいない。後者は複数の非常勤講師が担当しており、平準化を図るための情報共有、報告の場が設けられていない。

中等教職科目、栄養教諭の教職課程の共通開設は、全学共通教育科目(教養教育科目)に限定されており、学科等に属さない。

ICT 環境の整備状況については、紙媒体の授業資料による模擬授業等がメインで行われてきた一方で、教育の ICT 環境は全学的に整備されつつあり、講義室の常設 PC や各種ソフトが利用可能な情報演習室も完備している。学生が電子資料をもとに授業を展開することも可能。2020 年度に、教室に配信用カメラを設置し、遠隔での授業も可能になった。各教科の指導法をはじめとし、情報通信技術の習得に向けた指導を行うよう検討する。家庭科教職課程模擬授業などにおいては電子黒板を活用した ICT 教育を取り入れているが、タブレット活用など双方向型の模擬授業の展開を図りたい。(資料1-2-2)

また、履修学生に対し、旧教職課程研究室及び教務課保管の書籍について貸し出しを行っている。図書については2023 年度に教職課程分科会で検討され、大学図書館における教職関連コーナー設置や図書館 HP 上で教職支援図書の枠組設置に向けて順次整えられる方向にある。さらなる模擬授業の充実を図るには、それに適した施設・設備等教室環境を整える必要がある。

授業評価アンケートについては、高等教育開発センターで検討され、毎年実施されている。(資料1-2-4)教職科目に特化した設問を分科会で検討する必要はないが、自由記述欄の内容について精査する必要はある。

情報公表については、紙媒体で刊行していた教職課程年報を2020年度より、HPにて公開している。(資料1-2-5)

家政学部被服学科、食物栄養学科においては、各学科の専門的な学びを礎に家庭科教職課程を履修することを前提としている。入学時の教職課程ガイダンスに始まり学年ごとにガイダンスがあり、その都度学びの見通しを立てられるような体制になっている。食物栄養学科管理栄養士専攻においては、この専攻の専門的な学びをもとにして、栄養教諭の教職課程を履修することとしている。入学時の教職課程ガイダンスに始まり学年ごとにガイダンスがあり、その都度学びの見通しを立てられるような体制になっている。

履修学生の履修指導体制については基本的には担任(アカデミック・アドバイザー)によるが、教職課程教員は教職履修カルテにより学修の振り返り、成果を確認しコメントすることができるようになっている。

国際学部では、教職課程認定基準を充足する教職課程専任教員1名、免許教科「英語」3名以上、「社会」「地理歴史」「公民」各4名以上の教員が配置されている。実務家教員はいない。学部担当の教務課事務職員2名、全学の教職課程担当の事務職員専任1名、嘱託1名、学部教職課程専任教員1名が協働・連携して、教職課程は運営されている。全学組織である共通教育センター・教職課程分科会に、教職課程専任教員が学部代表の委員として所属し連絡調整を行っている。免許教科「英語」の専門的能力の育成・確保を目的に、4年次の教育実習派遣の要件として、TOEIC、IELTS等の英語運用能力を測定する各種試験の下限スコアを指定している。学部として、TOEIC Bridge試験の無料提供、TOEIC試験の受験料負担(但し、GSEプログラム履修学生限定)など便宜を図っている。また、免許教科「社会」「地理歴史」「公民」の専門的能力の育成・確保に資する取り組みに、「ニュース時事能力検定試験」の団体受験の無料提供がある。

初等教育課程の児童学科においては、幼稚園教諭一種免許を原則として取得することを前提として学生の受け入れを行っている。幼稚園教諭一種免許に加えて、小学校教諭一種免許を取得するか、保育士資格を取得するかを1年次に選択する。前者を幼小履修モデル、後者を幼保履修モデルと呼称しており、どちらを選択するかは、入学時ガイダンス及び履修モデル説明会において、実習担当者から情報提供を行い、学生が主体的に履修モデルの選択を行える体制を取っている。

履修指導体制については、担任(アカデミック・アドバイザー)との面談やkyonet(LMS)上の学生カルテへのコメントの記載を行い、教員免許取得に向けての目標設定・成果の確認をしている。また、学修成果の確認は、実習委員会、実習種別毎の委員会(幼稚園委員会・小免委員会)及び各担当教員レベルで実施しており、振り返りプリントの確認や学生の自己評価等チェック体制を取っている。ま

た、個々の授業科目に対する授業アンケートの評価や改善等についてはアンケート所感を記すことによってなされている。

職員の配置状況については、事務職員は専任 1 名、嘱託 1 名が配置されている。また、助手として常勤 5 名、非常勤 1 名が配属されており、実習種ごとに担当助手 1 名ずつを割り当てている。

〔優れた取組〕

中等教職課程、栄養教諭の教職課程の教員組織は 3 学部の教職全体を司る教職を専門とする教員 2 名と、各学部の教科教育を担当する教員から成る。教職課程の運営に関しては、教務課を主とする職員が担い役割を分担している。また、家政学部被服学科、食物栄養学科の専門科目は、家庭科教員養成の土台となる学問的視座と専門性を得るには十全である。教科に関する家政学部共通科目や学科専門科目を担当する教員には、家庭科教職課程の教科科目であることを認識するよう共有化を計っている。

文芸学部の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学の人材養成目的に基づき、「文学と芸術の世界をさまざまな視点から広く深くとらえることを通じて、文化全般にわたる広い視野と教養をそなえた豊かな人間性を養うことであり、また実社会において、自立した個人として、他者と協調しつつ、主体的に社会の発展に貢献しうる女性を育成する」ことにあり、教員養成もその重要な一つとして位置付けられ、学部としての特色を最大限に生かす形で、国語と英語と情報の 3 教科の教職課程が組織的に設置されている。

国際学部ではほぼ専任教員全員(1 名除く)が、免許教科「英語」「社会」「地理歴史」「公民」の「教科に関する科目」あるいは教育職員免許法第 66 条の 6 指定の授業科目を担当し、全学部体制で教員養成に取り組んでいる。

初等教育課程の児童学科では教職課程のうち実習関連授業について、実習指導担当教員・助手全員を構成員とする実習委員会を組織し、月 1 回程度会議を開催している。異なる実習種間で情報共有を行い、指導の体制や方針あるいは評価のあり方等について協議を行う体制を整えている。教職科目について学生の履修登録漏れが目立つ状況が生じたため、今年度より新たに免許資格チェック表を作成・配布して履修登録にミスが起きないような取り組みを始めた。

〔改善の方向性・課題〕

中等教職課程、栄養教諭の教職課程において教員養成目標を達成するための計画等見直しについて、教職履修カルテや教育実習日誌等、学生の学修成果を評価する材料があり、担当教員は見直しを行っている。今後、組織的な改善を行うために、教職課程の自己点検・評価を本格的に実施するとともに、持続的に見直しが行える体制を整える必要がある。

学修成果の確認は各担当教員レベルで実施しており、振り返りの確認や学生の自己評価等チェック体制は整っている。一方で、中等教職課程・栄養教諭の教職課程において分科会等組織単位での評価や教職課程の見直しは行われていない。

中等教職課程・栄養教諭の教職課程のガイダンスは学年ごとに教職教員と事務職員により行われ、学修の内容や方向性を理解するうえで、十全である。しかし、教員免許更新制が廃止されたことにより、ライフコース上のキャリア形成のひとつとして教員免許取得が視野に入っている学生は少ない。これらの学生に対しては卒業生教員の活躍や上級学年の履修学生の様子を紹介するなど、生涯のいちキャリアとしての教職課程履修の意義を提示することも可能である。なお、履修カルテについては、カルテの活用を活かした指導を課程全体で再考する必要がある。

国際学部では、各学生の学修成果と教員としての能力達成の程度について、その因果関係・相関関係について点検を行っていない。つまり、各学生の「教科に関する科目」の成績と教育実習校の成績評価の関連性について分析していないため、教職課程に関わって学部専門教育の成果を振り返り、カリキュラムの見直しに活かすことができないでいる。また、教職課程担当委員会が設けられておらず、免許教科の「教科に関する科目」についての検討作業において組織連携が十分に整えられるように今後整備していく必要がある。そのため正確な情報共有の徹底が求められる。また、学部教育課程の改革→教科に関する科目の検討(変更、削除、新設)→文部科学省への変更届 に関する標準タイムスケジュール、組織連携の仕組みを明確にする必要がある。

初等教育課程の児童学科内での組織的工夫としては優れた取り組みで述べた様々な取り組みがありつつ、他学科・学部の中高教職課程との情報共有については部分的なものにとどまっているため、全学的な教職組織の編成が課題として示されている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1:全学教育推進機構共通教育センター体制
- ・資料1-2-2:シラバス:シラバス_19261 家庭科教育の理論と方法(川上担当)
- ・資料1-2-3:シラバス:シラバス_19263 家庭科教育の理論と実践(川上担当)
- ・資料1-2-4:授業評価アンケート結果

<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/disclosure/student-info/>

- ・資料1-2-5:教職課程年報

<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/culture/purpose/>

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

教職に関心のある学生には、中等教職課程、栄養教諭の教職課程においては「教職入門」の履修を勧めているが、教職課程自体の受け入れ方針は特には設けず、2年次の希望資格登録では審査等を行っていない。教職関連科目については、免許取得を目指さない学生についても教養として意義あるものであると位置づけている。成長途上の学生の将来の可能性を早期から狭めることは望ましくないため、個々の科目を受講する中での意思決定を尊重していくことを大切にしながら、教員養成目標を、各科目で自覚させるよう促していくことが求められる。(資料2-1-1)

さらに、中等教職課程、栄養教諭の教職課程の履修を継続するための基準として、介護等体験と教育実習を行うための審査基準を設けて履修ガイド(資料2-1-2、pp.199-200)に掲載している。

履修指導体制については、面談や履修カルテへのコメントの記載を行っている。また、教職課程ガイダンス、専任教員の授業等で、履修に際しての姿勢や心構えについては伝え、教員採用に関する案内や掲示も適宜行っている。なお、「教職実践演習」は、学修上の仕上がり度を確認し、教職としての資質能力の不足部分を補完するという役割を担う科目であり、履修カルテの活用によってよりその役割を果たすと考えられるが、未だ統一的ではなく個々の担当者の指導に委ねられている状況である。

国際学部では、4月初旬の新生ガイダンスの中で、教員志望ないし教職課程に関心のある学生に対し、教務課による全学共通のオンデマンドガイダンスとは別に、対面による「教職課程ガイダンス」(1時間)を実施している。4年間の具体的な履修や教員免許状を授与されるまでの過程について、免許教科別の履修上の注意を交えた説明を行い、教職課程専任教員への質疑応答の時間を設けている。2年次以上の教職課程履修学生には、年度開始直前の教務課によるガイダンスとは別に、学部による各学年次ガイダンスの資料に履修上の注意を記している。教職にふさわしい学生を確保する仕組みとして、3年次年度末に教授会での「教育実習資格審査」がある。そこで、指定教職課程科目の単位修得の確認、人物確認がなされ、4年次実施の教育実習派遣が確定する。同時に、免許教科「英語」の教員免許状取得希望者には、TOEIC等の所定の英語運用能力を証明する試験において一定以上のスコアを取得することが求められている。また、十全な能力を持ち中等教育を担う教員の育成を目指し、中学校教諭及び高等学校教諭免許状の同時取得を原則としている。具体的には、中高「英語」、中「社会」+高「地理歴史」、中「社会」+高「公民」、中「社会」+高「地理歴史」「公民」の組み合わせ取得である。国際学部の履修希望者は、家政学部や文芸学部と比較して少ない。「教育実習資格審査」により実習が見合わせになり、ひいては卒業時に教員免許状を取得できない学生が毎年存在する。かつ卒業直後に教職に就く学生は近年稀である。(資料2-1-3、p.8)

初等教育課程の児童学科では幼稚園教諭及び小学校教諭の養成を主目的としているため、本学科の「入学者受入れの方針」(アドミSSION・ポリシー)に即して「教職課程で学ぶにふさわしい学生像」が示されている。アドミSSION・ポリシーを踏まえた学生像は、大学案内への記載やオープンキャンパスでの説明、高校への出張授業等の形で対外的に周知されており、学生募集に活かされている。また、選考においては推薦入試の面接や筆記試験にも反映されている。

入学後の育成については、DP を踏まえた学修成果が、各授業の成績評価やルーブリック、あるいは学生自身が記入する履修カルテ等の形で示されている。また、LMS 上において、各学生の学修成果が「DP 到達度」として数値やレーダーチャートの形で可視化されており、備わった資質能力について学生・教職員双方が随時確認できるようになっている。成績評価については、到達目標(成績 A のライン)及び単位習得目標(成績 C のライン)およびルーブリックを設定し、絶対評価による適切な成績評価がなされている。

教職課程の履修を継続するための基準として、教育実習の受講資格を設定し履修ガイドに掲載している。具体的には、教育実習に行く前に「児童学基礎演習」を履修済みであること、「保育内容の指導法」に関する科目6科目を履修登録済みであること等の基準を設けている。(小学校)幼稚園同様に教育実習の受講資格を設定し履修ガイドに掲載している。具体的には、教育実習に行く前に「教科に関する専門的事項」20 単位、「教育の基礎的理解に関する科目」10 単位を修得済みであること、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」6 科目、「各教科の指導法」10 科目を修得済みあるいは履修登録済みであること等である。

また、実習種別ごとの事前事後指導及び実習前後に行われる実習巡回担当教員との事前・事後面談等で、履修に際しての姿勢や心構えについて指導している。「保育・教職実践演習(初等)」は、学修上の到達度を確認し、教職としての資質能力の不足部分を補完する役割を担う科目であり、履修カルテの活用によってその役割を果たしている。

〔優れた取組〕

本学の中等教職課程科目、栄養教諭の教職課程科目は教職を希望する学生だけでなく、広く教養科目としての位置にもあり、履修の入り口は大きく受容し、履修が進むにつれ教員からの示唆や学生の進路に対する意思決定に拠り、教職課程履修者であることが自覚化されていく特色を持つ。しかし最終的に教育実習に臨むことができる教職の指定科目の基準を満たさなければ免許取得には至らず、学生の自律性や自立性を求める本学の建学の精神に基づく課程でもある。教員免許状の取得に必要な科目や手続きについては、履修ガイド(資料2-1-2、pp.197-233)に記載しており、関心のある学生は、各自で履修を始めることができる。各年度末に、次年度に向けた教職ガイダンスを実施し、教職員によるアドバイスを個別に行っている。また、家政学部においては、1年次の最初に、家庭科教員・栄養教諭の免許課程履修に関するガイダンスを行っている。

文芸学部では文芸学部のアドミッション・ポリシーに従い、人材確保を行っているが、教職に特化した条件は設けていない。そのため、意欲のある学生は誰でも教職履修を開始することができる。しかし、3年次の介護等体験、4年次の教育実習の参加・履修条件を定めており、履修を継続するための基準や教授会における審査の機会は設けている。

国際学部では、免許教科「英語」の取得希望者には、学習指導要領の求める4技能を万遍なく指導できる人材として教育実習に派遣できるよう、学生に対して、3年次の「実習資格審査」で、TOEICの受験はListening&Reading Test及びSpeaking&Writing Testの2領域を指定している。その他は、文芸学部と同様である。

初等教育課程の児童学科では、実習事前事後指導を通じてあるいは実習中の学修について、学修態度や提出物の遅延等実習に臨む姿勢に疑義の見られる学生に対して、適宜特別面談を実施している。面談の場において、教職を担うべき者として望ましい人物像や倫理観を伝え、人材育成に資する機会となっている。

〔改善の方向性・課題〕

中等教職課程、栄養教諭の教職課程のガイダンス等説明会で、履修に際しての姿勢や心構えについては伝えているが、策定された教員養成目標の説明は教科に任せられている。また、その時々状況に応じて教職履修者数の増減があるため、履修者数の変化に即応できるような体制を組む必要がある。DPを踏まえ、適切な履修学生を受け入れることが質の高い教員の養成のためには求められる。今後受け入れの基準を検討してゆく必要がある。また、「教職カルテ」を活用し、学生の教職への適性や資質に応じた適切な助言が行われるよう担当者間での認識の共有化を図る必要がある。

文芸学部ではかつては、教職専門科目に限って、3年次までに履修した授業の成績において、1つでもCあるいはDやXがあれば、4年次の教育実習を履修出来なかった。一方現在は、教職課程履修者数の減少に伴い、教育実習履修のための制限を定めず、1年次の「教職入門」および2年次の「教職課程ガイダンス」等で丁寧に履修に際しての姿勢や教職に関する心構えについて涵養している。教職課程を希望する学生の多くは、文芸学部で取得可能な資格の1つとして、親が勧めることによるものであり、学生本人の希望によるとは限らない。

国際学部では、免許教科「英語」については、現行学習指導要領の小学校から高等学校を貫く劇的な教育課程改革に伴い、「教育実習資格審査」にTOEIC等の英語運用能力試験の受験とその要取得スコアを定めているが、ガイダンスや掲示での再三の注意にもかかわらず締切り間際あるいは遅滞の提出が頻発している。

初等教育課程の児童学科では学生の確保については、少子化や全国的な教職志願者減を受けて、本学児童学科でも志願者確保が課題となりつつある。また、小学校教員免許取得希望者において、ここ数年資質能力の低下が感じられるようになっている。これらの課題を受けて、2025年度からの

カリキュラム変更を予定しており、その中で、学外での教職経験を促すために、保育・教育現場でのインターンシップを単位化する科目「保育・教育フィールド演習」を設置する予定となっている。

<根拠となる資料・データ等>

・資料2-1-1:教員養成目標

<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/culture/purpose/>

・資料2-1-2:2023 履修ガイド

https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/academics/culture/curriculum/outline/kyoritsu-wu_guide_u_2023.pdf

・資料2-1-3:2022 年度 共立女子大学教職課程 年次報告〈中高教諭・栄養教諭〉

<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/about/disclosure/student-info/kyousyoku2022.pdf>

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

中等教職課程、栄養教諭の教職課程の学生への進路指導の実施状況については、教員採用に関する案内や掲示を適宜行っている。また、東京都の教員採用に関する説明会は教育庁の方を招聘し、毎年開催しているが、地方の教員採用に関する説明会の情報提供は行っておらず、学生に各都道府県のHPを確認するよう指導している。事務局の体制とは別に、一部の教職関連科目においては教員が情報提供を行い、授業後も具体的な求人情報について提供・支援している。また、卒業生教員等の臨時講師を通して将来へのキャリア像の形成とキャリアに繋がられるよう授業を行っている。

一部の教職科目・教科に関する科目について、実務経験のある教員(専任・非常勤共に)が担当している。また、東京都より指導主事をゲストスピーカーとして招聘している科目や、学外講師として卒業生教員を呼んで授業実施している科目もある。

教職へのキャリア支援の一環として、教職課程を担当する専任教員や一部の教科教育担当教員が、学生の教職課程履修や進路選択に関連する個別相談、および教員採用試験に関する個別相談やグループによる勉強会などを行い、学生の教職に就こうとする意欲を喚起し、その適性を育もうとしている。また、教員採用試験の対策として、総合図書館雑誌コーナーに月刊誌『教職セミナー』『教職課程』を配架した。

児童学科では、学生への進路指導の実施状況については、学科の就職進路委員会委員によりキャリアガイダンスを毎年実施し、幼稚園教諭及び小学校教諭の卒業生を招聘し、あるいは就職活動を経験した4年生から経験を聞く機会を設けている。また、教員採用に関する案内や掲示を適宜行うとともに、東京都特別区の幼稚園教諭採用に関する説明会を毎年実施し、人事担当者及び幼稚園教諭を招聘している。また、授業内で卒業生教員等の臨時講師を通して、将来へのキャリア像の形成とキャリアに繋がられるような支援も行っている。

教員採用試験対策としては、小学校教諭・幼稚園教諭それぞれについて、学科内及び各教員の個別指導等によって、小論文の添削や実技指導、面接対策等を実施している。各教育委員会からの依頼による大学推薦については、学科教員による学内選抜を行っている。教員採用に関する情報提供は、授業内外で具体的な求人情報について適宜提供をしている。

〔優れた取組〕

中等教職課程・栄養教諭の教職課程において教職に就こうとする学生の支援はそれぞれの部署・担当で行われており、学生が求める限りでの対応ができるようになっている。特に卒業生教員の存在は大きく、家庭科教科科目の授業においては具体的な進路への示唆をいただいております。教員、学生支援課キャリア支援グループなどの部署とも個々に連携し、学生のニーズや適性に基づき支援を行っている。

文芸学部ではキャリア支援は、教職課程全体および学生支援課キャリア支援グループに委ね、学部あるいは国語科独自の組織的な取り組みは特に行っていない。ただし、教育実習においては、学部全体として、各実習生の卒業論文主査が実習校に赴き、実地指導を行う体制になっている。また、国語科教育関係の科目担当者が、卒業生の公立・私立の国語科現役教員からの専任教員・非常勤講師の依頼の窓口となり、教職課程履修者に適宜かつ随時、紹介あるいは斡旋を行っている。

英語科では英語科教育法(TEFL/TESL)の理論と実践を学びたい学生をサポートするために、以下のクラスが用意されている。「英語科教育の理論と方法」では、外国語または第二言語として英語を教えるための理論と実践をテキストベースで学んでいる。このクラスでは、実際の授業で扱うテーマごとに、講義、グループプロジェクト、ディスカッション、英語クラスの模擬授業と他学生の授業の見学を行っている。このクラスの特徴として、英語圏や日本の学校教育における言語学習と教育に関する豊富な経験と研究業績を持っているネイティブの講師が指導にあたっている。

国際学部では、「社会」「地理歴史」「公民」の3教科について教員免許状の同時取得を従来から認めていて、近年の中高一貫校(教育)の増加、学習指導要領や教員採用試験の変化に応ずるものとなっている。「英語」については、文芸学部と英語科教育法の授業を共有し、英語の授業を英語で指導できる教員の養成を図っている。

初等教育課程の児童学科では1年次に行っている、幼保・幼小履修モデル選択のための履修モデル説明会にて、教員免許取得に関する情報提供にとどまらず、幼稚園・小学校・保育所・児童福祉施設それぞれのキャリアイメージを学生に伝えている。免許資格の取得という短期的な目標ではなく、卒業後のキャリアビジョンを具体的に提示することで、より明確な目的意識に基づいた取得免許の選択につなげている。

〔改善の方向性・課題〕

在学生の出身都道府県及び就職を希望する都道府県は東京都に限定されていないため、就くための学生のニーズに基づく適切な就職支援体制については、引き続き検討を行う。中等教職課程や栄養教諭の教職課程では、一部の教員によって教員採用試験を受験する学生に対して、首都圏の教員採用試験の過去問の提示や面接対策などが行われているが、より全体的・包括的な取り組みが必要である。

さらに、教員採用試験の日程が早期化し試験内容も変化していることから、2年次までの授業で示唆を授ける必要があり、情報の提供等も含めて検討を要する。

国際学部では、あらためて卒業生教員を招いての座談会やトークイベントを積極的に開いて身近なモデルケースを示し、課程履修への意欲を高める必要がある。

初等教育課程の児童学科では、教員採用試験の日程・科目の変更に対して、学科としてどのように対応するか課題となっている。特に日程の早期化に対しては、カリキュラム変更によって小学校実習を4年次から3年次後期への移動を予定している。この変更により、実習中に採用試験を迎えるこ

とが避けられるとともに、実習後に小学校教諭への進路変更をしやすくなることが期待される。また、例年実施している学年ごとのキャリアガイダンスをさらなる充実化を検討中である。

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

中等教職課程、栄養教諭の教職課程の教育課程の体系性については、授業科目の開設及び専任教員の配置は法令上の要件を満たしている。教職科目の専門科目との関連性については、学部によって多少異なっている。文芸学部では、卒業要件となる専門科目とは別に、教職のための履修科目が設置され、特に関連性に配慮されているわけではない。家政学部の場合は、教職関連科目について学部共通科目と各学科の専門科目との適切な配置について CAP 制も鑑み、学部で問題を共有し検討している。主には各学科の教務委員や教職課程分科会の委員が中心になって検討が行われるが、恒久的な役割や担当が決められているわけではなく、連携・協働に関する課題が残されている。

ロール・プレイングや構成的グループエンカウンター、討論、模擬授業などのアクティブ・ラーニングと、ICT の導入状況については、「教育相談(カウンセリングを主とする)」「生徒指導(進路指導を含む)」「栄養生徒指導」「教育実習(事前・事後指導を含む)」「教職実践演習」などの一部教職科目や教科教育科目において実施している。これにより、取得する教員免許状の特性に応じた課題発見や課題解決等の実践的指導力を育成している。また、新規則に則り、各教科の指導法及び教育の方法と技術を含め、適切な授業整備を行うことが求められているが、一部の教職・教科科目ではすでにその育成が行われており、今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が可能になっている。

教育実習の事前事後指導 1 単位及び教職実践演習については、シラバスに基づき、適切な授業実施が行われている。(資料3-1-1、3-1-2) 実習による欠席分についても、別日に指導を行っている。

国際学部では、免許教科「英語」の「教科に関する科目」には学部専門教育科目のみが指定されている。コアカリキュラム 及び科目区分に従い、科目の系統性が確保され、学部カリキュラムの段階性にも相応している。免許教科「社会」「地歴」「公民」の「教科に関する科目」(必修)については、学部専門科目の他、教養科目が一部指定されている。

初等教育課程の児童学科は幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得できる幼保履修モデルと、幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許を取得できる幼小履修モデルに分かれている。教育課程の体系性について、授業科目の開設及び専任教員の配置は法令上の要件を満たしている。幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許の教職科目の大多数は児童学科単独開設である。教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目のみ、全学共通教育科目(教養教育科目)として開講されている。2019 年度より免許法改正及び再課程認定にあわせて、学科専門科目全体の見直しを行い、カリキュラム改革を行った。

また、児童学科の DP 及び CP に即してカリキュラム全体の系統性が保たれており、カリキュラムマップ(資料3-1-3)・カリキュラムツリー(資料3-1-4)・履修系統図(資料3-1-5)の形で全体の系統性が整理されている。

シラバスの記載内容と文部科学省への申請内容に差が無いか、適切に実施されているかどうかを引き続き確認する。全学的に実施しているシラバスチェック(資料3-1-6)において、教職科目に特化したチェック項目は現段階で含まれていないものの、2024年4月現在、教職課程コア・カリキュラムに沿ったシラバスチェックを行っている。

〔優れた取組〕

家政学部では、教職課程カリキュラムの編成においては、家政学部共通科目及び被服学科・食物栄養学科の系統的で多様なカリキュラムが教職関連科目や家庭科教育に関する科目、栄養教諭の教職課程に関する科目と結びつき、今日の内容や課題に多様に対応できる能力を育むことができるようになっている。

文芸学部では教職課程科目の一部を学部の卒業要件科目に含め、学部教育と教職課程との連携を果たし、学びの集大成として一部の学生は研究成果を公表している。特色として、学部の教職課程の枠にとらわれず、学部専門科目と連携し、広く教育方法について学究しており、これまでに多くの学生研究成果を公表している。特に、ICTを活用した新しい教育方法については、高一種(情報)教職課程を中心に学部演習科目と連携し、これまでに教職課程履修学生の研究賞受賞や、複数の学会発表成果がある。

英語科において、カリキュラムは理論と実践を組み合わせた授業で構成され、さらに併設校と連携した教育実習を実施している。また、外国語としての英語教育を目指す学生には、日本の教育制度を熟知した教員と、海外で学位を取得し、各国の大学で活躍した英語圏出身の教員による指導を行っている。このような国際色豊かな教員構成により、講義やディスカッションにおいて、幅広い視野や視点を獲得することができる。

国語科の教職課程カリキュラムは、課程認定基準を満たしたうえで、履修科目ができるだけ少なくなるよう調整されており、これと関連し、次の2点の特色が挙げられる。1つは、他大では国語科の教職課程は日本文学科所属の学生に限られているが、本学部においては、相当する日本語・日本文学専修の学生に限らず、学部学生全体に開かれている点である。もう1つは、教職課程の単位のほとんどが卒業要件に含まれていることである。各教科の指導法において、現役の併設中高教員が実践方法に関する授業を担当している。併設校には例年、実習生の引き受けを依頼しており、合わせて一つの高大関係ケースとみなしうる。

国際学部では、文芸学部と同様に、「教科に関する科目」の他、教職科目の9科目18単位までを学部専門教育科目として卒業要件科目に含めることが可能で、教員養成を強く意識したカリキュラムを編成している。免許教科「英語」の「教科に関する科目」の授業担当者に、その半数を英語を母語と

する者(あるいは公用語とする国出身者)を配置し、英語による英語教員養成を志向している。GSEプログラムの一部を指定して、英語運用能力の高い学生が、同プログラムと教職課程の履修を両立できるよう配慮している。免許教科「社会」「地理歴史」「公民」の「教科に関する科目」(必修)については、全学共通教育科目(教養教育科目)が一部指定されている。そのため、これら教科の教職課程履修学生は、大学指定の必修科目+学部指定の必修科目(語学)+教職課程必修科目で、教養教育科目の修得単位数が規定数を超える場合がある。(資料3-1-7、pp.216-220)

初等教育課程の児童学科では、現在のカリキュラムでは、学科専門科目がほぼすべて免許資格科目となっているため、教師としての幅広い教養の育成について課題があった。そのため、現在予定しているカリキュラム改革においては、保育・教育学の幅広い学びに誘い履修モデルの選択の材料ともなる初年次科目として「児童学を学ぶ」を新規開設するとともに、児童学の学びを主体的に発展させ自律的思考力や問題解決能力を養う科目として「保育・教育特別演習」の開設を予定している。また、実践的指導力をより効果的に育成する物的環境整備として、「保育教育実習支援ラボ」(仮称)の設置を検討中である。

〔改善の方向性・課題〕

CAP 制を導入しているが、学修時間の確保に繋がっているのか、資格取得に際し、計画的な履修が行えているのかを評価する必要がある。

東京都教育委員会の教員育成指標への対応は、授業レベルでは行われているものの、委員会等組織の中で検討されていない。また、今日的学校教育に対応する内容になっているかなどの視点から、教職課程カリキュラム編成の見直しを組織としてはしておらず、目標の周知とシラバス記載上の確認など、具体的、統括的に今後の方向性や策定プロセスについて委員会での検討を要する。

ICT の活用指導力の養成について十分な検討が行えていない。すでに一部の教員は ICT 活用について具体的に授業に取り入れているが、関連科目間の系統性や全体像などを共有しておらず、個々に進められている。

ICT の活用指導力の養成について環境面での課題がある。免許法改正に伴い新科目「教育と ICT 活用」を設置し 2023 年度から開講している。一方で、GIGA スクール構想に対応する ICT 機器については、電子黒板や chromebook の導入を行ったものの、その活用の仕方は各教員が個別に模索している状況もあり、効果的な利用方法についての共通理解を図ることが課題となっている。

国際学部では、教科指導法の授業科目担当者はすべて非常勤講師である。これにより、教職課程全体において3年次配当の授業科目(「教科に関する科目」を除く)を担当する教員が不在という事態となって、学生への継続的かつ適時の支援が不十分な嫌いがある。また、免許教科「社会」「地理歴史」「公民」の「教科に関する科目」の一部に「全学共通教育科目(教養教育科目)」が指定され、学生の修得する専門性に偏りの生じる懸念がある。これらの科目を担当する専任教員の雇用が課題となっている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1:シラバス_19132 教育実習 I (事前・事後指導を含む)_02(西村担当)
- ・資料3-1-2:シラバス_19111 教職実践演習(中・高)_01(西村担当)
- ・資料3-1-3:カリキュラムマップ
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/culture/curriculum/curriculum-map/>
- ・資料3-1-4:カリキュラムツリー <https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/academics/culture/curriculum/curriculum-tree/kasei-child.pdf>
- ・資料3-1-5:履修系統図 <https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/campus/info-curriculum/diagram/jidou2019.pdf>
- ・資料3-1-6:シラバスチェック資料
- ・資料3-1-7:2023 履修ガイド
https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/academics/culture/curriculum/outline/kyoritsu-wu_guide_u_2023.pdf

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

中等教職課程、栄養教諭の教職課程において教育実習を実施する学校との連携については教務課教職担当が対応しており、変更・中止に関わる連絡・書類の手続き等迅速に対応している。教育実習の事前指導では、学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会の確保について、実習校の方針に従って積極的に行うように指導している。教育実習の事前指導では、教育実習の意義・目的、および教育実習にのぞむ姿勢について考えたり学んだりする機会も十分に設けており、教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導している。

東京都の教員採用に関する説明会は教育庁の方を招き、毎年開催している。これにより地域の教育の実状や学校教育における最新の教育実践の方向性について学生が理解する機会を設けている。他方、地方の教員採用に関する説明会は情報提供を行っていない。中等教育の一部の科目においては、卒業生教員による教採試験の情報提供など、採用試験の支援を行っている。キャリア教育の一環としてガイダンスや採用試験対策講座を行い現場教員や教育委員会委員を招聘している。

初等教育課程の児童学科においては教育実習を実施する校園との連携については、幼稚園教育実習・小学校教育実習担当教員及び助手が対応しており、変更・中止に関わる連絡・書類の手続き等について迅速に対応している。学校体験活動や学習指導員としての活動など校園現場での体験活動を行う機会の確保については、教育実習の授業担当者や助手等によって適宜情報提供がなされている。また、近隣地域から依頼が届いたアルバイト・ボランティア情報についてチラシ・パンフレットの閲覧コーナーを設けており、2023年度からは、情報閲覧コーナーに設置している掲示板に加え、学生の情報閲覧の便宜を図るために学内限定のウェブ掲示板を設けた。実習参加要件である救命救急講習については、地域の消防署(千代田区神田消防署)と連携して、毎年夏季休暇を利用して2年次に実施し、子どもの命の安全を守る危機管理能力の育成を図っている。

〔優れた取組〕

中等教職課程、栄養教諭の教職課程においては教育実習校である併設中学・高等学校とは連携体制にあり、コロナ禍において一時中断しているものの、学生の中高授業の見学や教育実習について教職員が情報を交換しあえる機会がある。

半年ごとに教職員を対象に開催される授業見学会は、教職員が他の教員の授業を観察する機会を提供し、連携を促進し、自分の授業を改善するための洞察を得ることができる。また、英語指導法を担当する教員は、教材や授業内活動について定期的に情報交換を行っている。

国語科教育科目として設けられた、「国語科教育の理論と方法」と「国語科教育の理論と実践」の2科目は、少人数による徹底的かつ懇切な指導をするため、1クラス10人以内に制限している。また

「国語科教育の理論と方法」では、文学と日本語学の専任教員がそれぞれの専門から重点的な指導を行う一方で、「国語科教育の理論と実践」では、併設校のベテラン現役教員を担当者とし、教案作成から教壇実習まで、きわめて実践的な指導を行っている。

教職課程を履修する意欲的な学生は、一般企業および卒業生が勤務する中学・高等学校と連携し、ICT を活用した新しい教授法の研究や開発を行っている。

中等教育課程では、一部授業(「教職実践演習」)において、地方教育行政の実際を理解してもらうべく、千代田区教育委員会の定例会議の見学、区庁舎内で区教育委員の講話及び質疑応答の場を設けた。また、将来の就労可能性を考慮し、都内の区立夜間中学校(2023 年度は足立区立第四中学校)の学校・授業見学の機会を持った。他授業(「教育の制度と経営」)では、東京都教育委員会の指導主事、千代田区教育委員会の指導主事及び担当行政職員を招き、地方教育行政の実際や都内・区内の教員業務や具体的な待遇について、質疑応答を交えて学ぶ機会を持った。他授業(「教育の方法と技術」)では、各地の公立学校の公開行事を活用しての学校見学を指示し、生徒の実態、授業実践や学校・学級運営の現状を毎年のレポート課題としている。キャンパス隣接の千代田区立神田一橋中学校には、毎年7月の公開時に多くの学生が見学を希望し、授業担当者は同校と連絡調整をしている。

初等教育課程の児童学科では児童学の初年次教育として設定している「児童学基礎演習」にて、教育現場を実地に経験する機会として、千代田区内の幼稚園・保育所と連携して見学を実施し、実践的指導力育成の基礎を養っている。また、児童学の学びを深めるために、近隣教育施設である昭和館(千代田区)とおもちゃ美術館(新宿区)の見学も実施している。2024 年度からはさらに、見学先として千代田区立小学校6校を加えて地域連携のさらなる充実化を図る。千代田区との地域連携事業として、造形ワークショップ(「親子で描き・つくるワークショップ」)を実施している。この事業は、未就学児から小学生児童(低学年程度)を対象とした「都市での子育て」を支援する事業であり、千代田区からの委託事業として予算化もされている。サポートスタッフとして参加する学生にとって、千代田区在住の親子と関わる中で実践的指導力を高める貴重な場となっている。

〔改善の方向性・課題〕

中等教職課程における在学生の出身都道府県及び就職を希望する都道府県は東京都に限定されていないため、就職支援体制については、引き続き検討を行う。一部の教員によって教員採用試験を受験する学生に対して、首都圏の教員採用試験の過去問の提示や面接対策などが行われているが、より全体的・包括的な取り組みが必要である。

また、よりキャリア支援を充実させるために、教職に就いている卒業生との連携を図ることも重要である。

児童学科では学外での教職経験をさらに促すための新規科目として開設予定の科目「保育・教育フィールド演習」にて、保育・教育現場でのインターンシップの単位化を予定しており、その際には近

隣地域の校園との連携をさらに深め、インターン受け入れ先の確保に努めるとともに、学生のキャリア形成につなげていくことが課題である。

Ⅲ. 総合評価(全体を通じた自己評価)

本学は、1886年創立の共立女子職業学校を母体とし、女性への専門的知識と高度な技能習得を目的とし、その中でも教員養成は創設初期より130年以上にわたり行われている。2023年現在、本学の教員養成課程は、建学の精神である「女性の自立と自活」と校訓「誠実・勤勉・友愛」を基本理念として、全学及び各学部の人材養成目的が定められている。これらの目的とそれに連なるDPとCPに基づき、幅広く深く教養と専門学問分野における高度な知識・技能、そして実社会における諸課題について対処できる総合的な思考力・判断力を身に付け、周囲を導くリーダーシップと誠実で豊かな人間性を備えた教員の養成を目的としている。以上のような理念に基づく本学教職課程における自己点検結果(本報告書)の要点を以下に記す。

・基準領域1:教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

伝統ある本学の建学の精神、およびDPとCPに基づき、教職課程を担う専任教員および職員全体の共通理解はなされている。また、現時点では中高教職課程と幼小教職課程の全学的な組織は構築されていないものの、児童学科所属教員が中高家庭科の教員免許を担当しているため、幼小教職課程、中高教職課程が相互に共有事項がある場合は「教職課程分科会」と児童学科の橋渡し役を担っている。なお、令和6(2024)年度より、全教職課程に関わる教職員で構成する拡大教職課程分科会設置を予定しており、全学的な実施組織体制構築に向けた取り組みを進めている。

・基準領域2:学生の確保・育成・キャリア支援

本学の教職課程科目は開放性であり教職を希望する学生だけではなく、広く教養科目としても位置付けられている。このことから、教職希望学生の視点に限らず、多様な進路を選択する複数学部の学生が集い、学部や専攻を超えた交流と広い視野に立ち学び合えることが特徴である。一方、教職希望者への支援は地域が限定されており、昨今の教職希望者の減少もともない、十分な体制とは言えないのが現状である。したがって、支援可能な地域を拡大し、例えば出身地での教職採用試験に学内で安心して取り組めるような支援体制が課題となる。

・基準領域3:適切な教職課程カリキュラム

教育課程の体系性については、授業科目の開設及び専任教員の配置は法令上の要件を満たしている。一方、ICT機器については、電子黒板やchromebookの導入を行ったものの、その活用の仕方は各教員が個別に模索している状況もあり、効果的な利用方法についての共通理解を図ることが課題となっている。

今後は、本報告書で述べた課題について検討し改善すると共に、本学の伝統ある教職課程をさらに発展充実させたい。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

	日程	教務課・教職課程分科会対応
準備	2023年9月25日	教職課程分科会を開催。本年度の教職課程自己点検・評価報告書の作成プロセスを確認した。
	12月1日(金)～12月25日(月)	教職課程分科会にて割り振り、執筆事項について確認を行う。
執筆	2024年1月1日(水)～4月12日(金)	今年度の自己点検・評価項目に基づき、「改善」を検討し「計画」を策定
		「計画」に基づく教育活動および改善の実施
		自己点検・評価項目に沿って、「計画」に基づき実施した活動を、根拠に基づき「点検・評価」する
		担当ごとに「自己点検・評価シート」へ記載
完成	4月12日(金)～30日(火)	「自己点検・評価シート」記載内容の確認・完成
会議体へ諮る	5月1日～8日の間 ※5月3日～6日除く	教職課程分科会 承認
	5月9日(木)	共通教育センター運営会議へ上程
	5月16日頃	全学教育推進機構へ上程
	6月17日(月)	大学企画課へ提出
	6月18日(火)	全学自己点検・評価委員会 上程予定
	6月18日(火)	研究科長・学部長・科長会 上程予定
	6月25日(火)	常務理事会 上程予定
公開	6月30日(日)まで	HP 公開予定
	6月30日(日)まで	全国私立大学教職課程協会提出予定

V 現況基礎データ一覧

令和6年5月1日現在

法人名 学校法人 共立女子学園						
大学 共立女子大学						
学部名・学科・コース名 家政学部:被服学科、食物栄養学科、児童学科 文芸学部:文芸学科(言語・文学領域、芸術領域、文化領域、メディア領域) 国際学部:国際学科 家政学研究科:被服学専攻、食物学専攻、建築・デザイン専攻、児童学専攻 文芸学研究科:文芸学専攻 国際学研究科:国際学専攻						
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等						
1 前年度卒業生数						1,372
2 ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)						1,264
3 ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)						301
4 ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)						65
④のうち、正規採用者数						58
④のうち、臨時的任用者数						7
2 教員組織						
		教授	准教授	講師	助教	その他(助手)
	教員数	108	39	22	14	72
相談員・支援員など専門職員数						

授業コード・科目名・クラス	19261 家庭科教育の理論と方法
科目区分	家政学部 資格に関する科目
開講年度・学期	2024年度前期
授業担当者	川上 雅子
履修年次	3年
単位数	4単位
授業回数	28
担当教員の実務経験	高等学校教諭（川上 雅子）
備考	<p>授業で課した課題（レポート、テスト等）に対するフィードバックは、以下のいずれかの方法で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該授業内または次回以降の授業内における解説・講評 ・kyonet等を通じた解説・講評 ・提出物に対する添削・返却 <p>Feedback on class assignments (reports, tests, etc.) will be given in one of the following ways:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ During the class or in the next class. ・ Comments and criticism via kyonet, etc. ・ Correction and return of submitted work.

カリキュラム・マップ	<p>教職課程（中学校教諭一種・高等学校教諭一種）履修系統図 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2022nendo/risyukeitouzu.kyoshoku.pdf この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します。</p>
科目概要	<p>本科目は、中学校・高等学校家庭科の教員免許取得のために設定された「教職に関する科目」のうち、本学で指定された科目のひとつである。「家庭科教育の理論と実践」と併せて、家庭科を指導する際に必要な基礎的内容を、情報機器及び教材をを活用しながら研究してゆく。週2回の授業をもって、この科目の修得単位を満たす。併設校や各自の近隣の学校での授業参観を前期の課題の1つとしている。授業公開日に出向き、なるべく教育現場に慣れておくことが求められる。</p>
到達目標（成績評価A）	<p>科目名にあるように、学生自ら主体的に家庭科教育の理論と方法を追究することが求められている科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業計画にある題材内容を自ら深めることができるようになる。 2.家庭科教育において還元できる文献や資料の収集、調査、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組む能力を身につけることができるようになる。 3.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい見識を身につけることができるようになる。
単位修得目標（成績評価C）	<ol style="list-style-type: none"> 1.授業計画にある基礎的な題材内容を自ら深めることができるようになる。 2.家庭科教育において還元できる文献や資料の収集、調査、グループワーク、討論、学外講師の講義などに取り組む能力を身につけることができるようになる。 3.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい基礎的な見識を身につけることができるようになる。

授業区分	対面授業
授業形態	講義／演習
授業方法	リアクションペーパー／クリッカー／レポート／プレゼンテーション／ディスカッション／グループワーク／フィールドワーク

授業の進め方の概要	<p>○第1回目の授業で、本学の教員養成目標及び本科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の流れを説明します</p> <p>○上記科目概要に記した内容を深めるために、講義で提示した主題に対しリサーチを行い、それをもとに繰り返されるグループワークなどアクティブラーニングとICT活用教育を基本とします</p> <p>○この科目の学びを通して、家政学部ディプロマポリシーにおける〈主体的に学び、諸課題に対処できる総合的な判断力と豊かな人間性を育む〉ことに資することができます</p> <p>○レポートなど方法については講義で順を追っていねいに説明するので、少しずつ思考や取り組みを深化させていくことができます</p> <p>○レポート提出時には必ずグループワークを行い、他者との比較を通して得た新たな見解を総合化し、それを追記した上で提出します</p> <p>○提出されたレポートは次回のレポートへ活かせるよう、コメントを加えて返却します</p> <p>○kyonetのクラスプロフィールで、授業前に授業内容や事前・事後学修を知ることができるので確認しましょう</p> <p>○ルーブリック評価に基づき、課題については授業中にコメントするとともに、提出されたレポートについてはコメントして返却しますので適宜改善していきましょう</p> <p>○家族・保育領域の教材研究としての児童学科付設〈はるにれ〉の見学を行います</p> <p>○教育・保育に関するボランティア活動や学校見学等を通して家庭科の内容を深める方法をもって、この科目の充実</p>
-----------	---

を図ることができます

※授業がオンライン化された場合には、授業方法、課題、課題の提出方法などに変更が生じることがあります。

第1回		
事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに履修の流れををHPより捉えておく ・共立女子大学の〈教員養成目標〉をHPより確認する ・シラバスにより科目の概要及びルーブリック評価を確認する ・テキスト、指導要領解説、教科書などの資料に目通しする ・自身の家庭科観を整理する 	1.5時間
授業内容	<p>【主題1】〈家庭科教育の理論と方法〉へのアプローチを知る 「この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します」</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目への視座、目標、日程、概要及び評価方法と家政学部ディプロマ・ポリシーとルーブリック評価規準を理解し、目標を確認する ・〈教員養成目標〉を理解する ・1年間の見通しと履修意義を確認する ・ルーブリック評価規準を確認する ・kyonetのクラスプロファイルの活用を知る（授業前に配信されるので、事前・事後学修を確認することができる） <p>【学修活動】HPやkyonet上のシラバスを各自リサーチするとともに、kyonet クラスプロファイルの活用の仕方を知る</p> <p>=====</p> <p>【主題2】「家庭科教育の理論と方法」に対する自身の姿勢とこれからの学びの視座を考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの履修目的をスピーチする ・新学習指導要領の実施状況を知る ・新しい教育の流れを知る ・アクティブ・ラーニング、ICT活用教育、デジタル教科書、カリキュラム・マネジメント、SDGsなど ・教育・保育に関するボランティア活動や学校見学を通して、家庭科の内容を深める方法を知る <p>【学修活動】主題に対する問いに基づきwebリサーチやグループワークや発表を行うことで他者の見解を知り、本時のまとめとして提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回を振り返り、1年間の見通しと自身の履修目的を新たに考える ・自らが受けてきた家庭科教育を振り返る ・テキスト〈家庭科の教師像〉を読む ・中高で使用していた教科書や資料を第1回目の授業の視点で、あらためて目通しする ・文科省のHPで学習指導要領の新しい視点を探る 	3時間
第2回		
授業内容	<p>【主題】自らが受けてきた家庭科教育を振り返る①+最新の教員採用動向について知る</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の家庭科の教員採用動向について知る ・自らが受けてきた家庭科教育を考える①-担当教員について <p>【学修活動】教員採用HPや講話を通し思考を拡げ、スピーチを行う</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・中高で使用していた教科書や資料を通して小・中・高校の家庭科の内容を振り返る ・SDGsやICT教育についてリサーチする ・家庭科教科書の新しい特徴を探る ・デジタル教科書を探る 	3時間
第3回		
授業内容	<p>【主題】自らが受けてきた家庭科教育を考える②-教科内容について</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業に関する問題とその背景にある課題について理解する ・自らが受けてきた家庭科教育を考える②-教科内容について <p>【学修活動】主題に沿ったグループディスカッションを通して他者の見解を知り思考を拡げ、これからの課題を認識する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領解説を概観し、その構造を理解しメモする 	3時間
第4回		
授業内容	<p>【主題】4年生の教員希望の学生たちの家庭科教育観を知る</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員希望の学生による講話、模擬授業などを通して、学びのステップを理解する ・それぞれの家庭科教育観を知る 	

	【学修活動】主題に沿ったワークショップを通して発問し、得られた新しい知見を発表するとともに成果をWeb課題として入力する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省のHPより学習指導要領や解説などの所在を知り、USBに保存する ・テキスト第3章21世紀の生活課題と家庭科教育を通読し、自分の考えをまとめる ・4年生の講話の感想を、Web課題として入力する 	3時間
第5回		
授業内容	<p>【主題】21世紀の生活課題と家庭科教育を考える（テキスト第3章）</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト資料によって得られた知見を、グループワークを通して意見交換する ・教科の背景にある現代思想と教材研究の意義を理解する <p>【学修活動】主題に沿った講話を聴き、知見を発表するとともにその総括的見解をレポート課題としてまとめる</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・テキスト第3章1－21世紀の生活環境と求められる人間像を通読する ・共立のはるにれのHPを確認する 	4時間
第6回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育を考える－21世紀の生活環境と求められる人間像（テキスト第3章）＋教材研究－児童学科の校舎3号館、はるにれの所在を確認する</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト資料によって得られた知見を、グループワークを通して意見交換する ・教科の背景にある現代思想と教材研究の意義を理解する ・HPよりはるにれの目的を知り、その所在を確認する <p>【学修活動】主題に沿った講話を聴き、知見を発表するとともにその総括的思考をレポート課題としてまとめる</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・テキスト第3章2－学校教育において求められる視点を通読する ・子育てひろばについてWeBリサーチする 	3時間
第7回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育を考える－学校教育において求められる視点（テキスト第3章）＋教材研究－自ら子ども期の記憶をたどる</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト資料によって得られた知見を、グループワークを通して意見交換する ・教科の背景にある現代思想と教材研究の意義を理解する ・自らの子ども期を振り返り、身近な子育てひろばの所在をリサーチする <p>【学修活動】主題に沿った講話を聴き、知見を発表するとともにその総括的思考をレポート課題としてまとめるとともに自分の子ども期の記憶と、身近な子育てひろばの所在を発表し共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・文科省HPをリサーチする ・はるにれ見学の視点を確認する 	3時間
第8回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育の構造－学習指導要領とはなにか、その位置を考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省HPのから最新の教科情報をリサーチする ・教材研究：はるにれを見学の視点を理解する（はるにれボランティア向け動画より） <p>【学修活動】文科省HPを概観しつつ、教材研究としてはるにれの見学の際の視点を動画より学びグループワークで共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・解説書の目次・構造を概観する ・はるにれ見学の知見をまとめる 	3時間
第9回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育の構造－学習指導要領と開設の通読</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説書の構造をリサーチする ・グループワークにより気づきを意見交換する ・はるにれを見学し、その知見の共有をする <p>【学修活動】学習指導要領とその解説を概観しつつ、教材研究としてはるにれの見学による視点をグループワークで共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・構造に関するワークシートを作成する ・教科書書評（家族・家庭生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第10回		
授業内容	<p>【主題】学習指導要領の内容分析の視点を知る1＋中学校家庭科教科書書評1</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高の一貫性を視座に、その目標と内容に注目して分析する ・教科書書評（家族・家庭生活）を行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高を比較検討するワークシートを作成する→レポート作成 ・教科書書評（食生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第11回		
授業内容	【主題】 学習指導要領の内容分析の視点を知る 2 + 中学校家庭科教科書書評 2 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・小中高の一貫性を視座に、その評価の観点に注目して分析する ・教科書書評（食生活）を行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・論点整理とレポート作成、完成させる ・発表準備 ・教科書書評（衣生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第12回		
授業内容	【主題】 学習指導要領解説の構造分析の視点を知る 1 + 中学校家庭科教科書書評 3 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・解説の構成を解釈する ・中学校編の教科の特徴を理解する ・教科書書評（衣生活）を行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要領における文末文のチェックをし、特徴をつかむ ・発表準備 ・教科書書評（住生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第13回		
授業内容	【主題】 学習指導要領解説の構造分析の視点を知る 2 + 中学校家庭科教科書書評 4 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・解説の文体構造を解釈する ・中学校編の分野の特徴を理解する ・教科書書評（住生活）を行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・テキスト第3章 3 家庭科教育の視点を通読する ・教科書書評（消費生活と環境）を行い、レポートを作成する 	3時間
第14回		
授業内容	【主題】 家庭科教育を考える一家族・家庭において求められる視点（テキスト第3章 3 - 1） + 中学校家庭科教科書書評 5 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育を考える一家族・家庭において求められる視点：自立と共生を包含した生活価値と創造を理解する ・教科書書評（消費生活と環境）を行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・教科書書評（高校・家族・家庭生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第15回		
授業内容	【主題】 学習指導要領解説の構造分析の視点を知る 3 + 高校家庭科教科書書評 1 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・解説の構成を解釈する ・高校校編の教科の特徴を理解する ・教科書書評（高校・家族・家庭生活）を行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・中高の家庭科教科書を通読する ・教科書書評（高校・食生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第16回		
授業内容	【主題】 学習指導要領解説の構造分析の視点を知る 4 + 高校家庭科教科書書評 2 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・解説の文体構造を解釈する ・高校校編の教科の特徴を理解する ・教科書書評（高校・食生活）を行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	

事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を整理し、レポートを作成する ・中高の家庭科教科書を分析的視点で通読する ・採択過程をリサーチする ・教科書書評（高校・衣・住生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第17回		
授業内容	<p>【主題】教科書を考える＋高校家庭科教科書書評3</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教科書の編集と採択の過程と視点を知る ・教科書書評（高校・衣・住生活）を行う <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・家庭科教科書を通読する ・教科書書評（高校・消費生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第18回		
授業内容	<p>【主題】家庭科の具現化を考える－方法論としてのホームプロジェクトの意義と方法＋高校家庭科教科書書評4</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育の具現化：方法論としてのホームプロジェクトの意義と方法を理解する ○教科書書評（高校・消費生活）のグループワークを行う <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・高校教科書の該当ページの比較をする ・学外講師の方への質問を考える 	3時間
第19回		
授業内容	<p>【主題】学外講師の講話－高等学校編 大鷲麻理先生（予定）</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話より、高校家庭科の特徴と課題を知る ・高校生の特徴を理解する <p>【学修活動】講話後、作成してきた課題に質疑応答とグループで意見交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・高校家庭科の課題を整理し、レポートを作成する 	3時間
第20回		
授業内容	<p>【主題】家庭科の具現化を考える1－方法論としての消費者教育</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育における消費者教育：その変遷を知る ・家庭科教育としての消費者教育の独自性を考える <p>【学修活動】主題に関する問いを基に意見交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育の実態をHPで調べる ・夏休みの教材研究の所在を確認する 	3時間
第21回		
授業内容	<p>【主題】家庭科の具現化を考える2－方法論としての消費者教育</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育における消費者教育：その方法を考える <p>【学修活動】主題に関する問いを基に意見交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における消費者教育の実態をHPで調べる ・テキスト第10章 家庭科の施設・設備について通読する 	3時間
第22回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育を考える－学校教育において求められる視点：消費・環境問題克服へのアプローチ（テキスト第3章3－2）</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育を考える－学校教育において求められる視点：消費・環境問題克服へのアプローチ ・教科書書評（消費生活と環境）と関連付けて課題を考える <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・講師への質問事項を考える 	3時間
第23回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育を考える－家庭科教室の施設・設備</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の家庭科教室の施設・設備の実態について調べ、家庭科独自の課題を抽出する ・テキスト第10章（家庭科の施設・設備）の焦点を基に実態をリサーチする <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	

事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・教科と施設・設備、育まれる技能のつながりをまとめる ・家庭をめぐる社会課題について考える 	3時間
第24回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育を考えるー社会的要請から考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育への社会的要請から考える ・虐待・貧困 ・ヤングケアラー など <p>【学修活動】提示された資料に基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・第3章 家庭科の社会課題を通読する 	3時間
第25回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育を考えるー学校教育において求められる視点：生活文化の継承と創造につなげる生活技術能力の育成（テキスト第3章3-3）</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育を考えるー学校教育において求められる視点：生活文化の継承と創造につなげる生活技術能力の育成 ・教科書書評（衣・食・住生活の文化）と関連付けて課題を考える <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・テキスト3章 家庭科の社会課題 通読する 	3時間
第26回		
授業内容	<p>【主題】教材研究の方法1ー夏の休暇の課題を理解する</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活センターの見学について ・高齢者施設のリサーチについて ・新聞資料収集について ・指導細案について理解する <p>【学修活動】説明を聴き、リサーチ方法と細案作成について共通理解する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科のミニ模擬授業に関する指導細案の立案を構想する 	3時間
第27回		
授業内容	<p>【主題】教材研究の方法2</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークにより、教材研究に基づいて指導細案について構想をまとめる ・他者からの助言により新しい知見を得る <p>【学修活動】立案してきた構想を発表し意見交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導細案の修正を行う ・27回までの授業で得られた視点をまとめる 	3.5時間
第28回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育の理論と方法の総括</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育の理論と方法についての総括をスピーチする ・ルーブリック評価規準に照らしその成果と自らの課題を発表する ・夏の教材研究のプランを確認する <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づき、知見をはスピーチしたのち全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・前期授業の資料等のまとめを行う ・後期授業に向けて夏季休暇中の課題の見通しを立てる 	3.5時間

評価の基準	S	A	B	C	D	X
	100～90点	89～80点	79～70点	69点～60点	59点以下	—
	到達目標を超えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している	単位修得目標を達成している	単位修得目標を達成できていない	受験資格無、レポート・課題未提出等
評価の方法と配分	<ul style="list-style-type: none"> ○評価対象者となるのは、家政学部の出席規定に抛る ○主としてレポートによる ○さらにレポートにかかわるリサーチ、それに基づくグループワークでの発言など協力・協働する姿勢も含む ○配分：①レポート内容（70%）②グループワークにおける参加・協働性（20%）③事前リサーチへの取り組み 					

姿勢（10％）

※授業がオンライン化された場合には、授業方法、課題、課題の提出方法などに変更が生じることがあります。

評価基準ルーブリック

家政学部ディプロマ・ポリシーに連なるルーブリック評価表

	S	A	B	C	D
DP1-1-2 客観性・自律性【専門知識】	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から総合的に理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ高い使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割や使命を理解することができる	中等教育課程における家庭科教育を理解し、教師としての役割を理解することができる	中等家庭科教育の位置や内容と教職の使命について理解することができない
DP1-3 客観性・自律性【主体的判断力】	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を総合的に理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、その諸課題を自ら引き受ける主体的で内省的な判断や思考を他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、その諸課題を自ら引き受ける主体的思考を他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育と結び付けて考え他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において家庭科教育の意義を考え、他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において問題の認識や自己の課題を主体的に考えようとすることができない
DP2 課題発見・解決力	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して自己の教科観を的確かつ豊かな創造性や独自性をもって表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して自己の教科観を的確かつ創造性をもって表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して教科観を的確に表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して教科観を表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程においてリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して所与された課題に対し表現することができない
DP3 リーダーシップ	教員養成目標に鑑み、生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき	生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題について、自らの	現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題についてルーブリックに照らし他者	家庭科教育について、他者との意見交換を通して考えることができる	生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題について、自らの

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="619 67 794 674"> <p>課題について、自らの教科観や教師像を評価指標であるループ（「指導案ループ」や「模擬授業ループ」を含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、創造的で新しい家庭科教育を構築することができる</p> </td> <td data-bbox="794 67 970 674"> <p>教科観や教師像を評価指標であるループ（「指導案ループ」や「模擬授業ループ」を含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、家庭科教育を構築することができる</p> </td> <td data-bbox="970 67 1145 674"> <p>と意見を交換しあい、家庭科教育の現状をとらえることができる</p> </td> <td data-bbox="1145 67 1525 674"> <p>教科観や教師像をもって他者と協力・協働することができない</p> </td> </tr> </table>	<p>課題について、自らの教科観や教師像を評価指標であるループ（「指導案ループ」や「模擬授業ループ」を含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、創造的で新しい家庭科教育を構築することができる</p>	<p>教科観や教師像を評価指標であるループ（「指導案ループ」や「模擬授業ループ」を含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、家庭科教育を構築することができる</p>	<p>と意見を交換しあい、家庭科教育の現状をとらえることができる</p>	<p>教科観や教師像をもって他者と協力・協働することができない</p>
<p>課題について、自らの教科観や教師像を評価指標であるループ（「指導案ループ」や「模擬授業ループ」を含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、創造的で新しい家庭科教育を構築することができる</p>	<p>教科観や教師像を評価指標であるループ（「指導案ループ」や「模擬授業ループ」を含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、家庭科教育を構築することができる</p>	<p>と意見を交換しあい、家庭科教育の現状をとらえることができる</p>	<p>教科観や教師像をもって他者と協力・協働することができない</p>		

テキスト	<p>家庭科教育法 改訂版,佐藤文子・川上雅子,高陵社, 2010年, ¥2000 + 税 小学校学習指導要領解説 家庭編,文科省,東洋館出版,2017, ¥95 + 税 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編,文科省,開隆堂,2018, ¥143 + 税 高等学校学習指導要領解説 家庭編,文科省,教育図書,2019 ¥462 + 税 小学校家庭科教科書 1冊 (288円) 中学校家庭科教科書 2冊 (680円×2) 高等学校家庭科教科書 2冊 (585円+791円)</p>
参考文献・参考Webサイト等	<p>〈学習指導要領関係〉 ・文部科学省HP ・国立教育政策研究所HP 〈授業研究関係〉 ・日本家庭科教育学会HP ・中高家庭科教科書出版社HP（開隆堂HP、東京書籍HP、教育図書HP、大修館HP、実教出版HPなど）</p>

課題図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				

履修者へのメッセージ	<p>川上雅子研究室：3号館6階603A（家庭科教育研究室） 月曜日・水曜日昼休み在室</p>
------------	--

授業コード・科目名・クラス	19263 家庭科教育の理論と実践
科目区分	家政学部 資格に関する科目
開講年度・学期	2024年度後期
授業担当者	川上 雅子
履修年次	3年
単位数	4単位
授業回数	28
担当教員の実務経験	高等学校教諭（川上 雅子）
備考	<p>授業で課した課題（レポート、テスト等）に対するフィードバックは、以下のいずれかの方法で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該授業内または次回以降の授業内における解説・講評 ・kyonet等を通じた解説・講評 ・提出物に対する添削・返却 <p>Feedback on class assignments (reports, tests, etc.) will be given in one of the following ways:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ During the class or in the next class. ・ Comments and criticism via kyonet, etc. ・ Correction and return of submitted work.

カリキュラム・マップ	<p>教職課程（中学校教諭一種・高等学校教諭一種）履修系統図 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2022nendo/risyukeitouzu.kyoshoku.pdf この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します。</p>
科目概要	<p>本科目は、中学校・高等学校家庭科の教員免許取得のために設定された「教職に関する科目」のうち、本学で指定された科目のひとつである。「家庭科教育の理論と方法」と併せて、家庭科を指導する際に必要な基礎的内容を捉えてゆく。週2回の授業をもって、この科目の修得単位を満たす。授業の後半には、学習指導案に基づき模擬授業を行いながら、相互批評においても多角的な視野を養うことができるようになる。</p>
到達目標（成績評価A）	<p>科目名に通じるように、アクティブラーニングを通して学生自ら主体的に家庭科教育の理論と実践を探ることが求められている科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業計画にある題材内容を深める文献や資料の収集、調査、観察、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組むことで、自らの教育観を明示化できるようになる。 2.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい見識を身につけることができるようになる。
単位修得目標（成績評価C）	<ol style="list-style-type: none"> 1.授業計画にある題材内容を深める文献や資料の収集、調査、観察、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組むことで、自らの教育観を指導案や模擬授業において明示化できるようになる。 2.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい基礎的な見識を身につけることができるようになる。

授業区分	対面授業
授業形態	講義／演習
授業方法	リアクションペーパー／クリッカー／レポート／プレゼンテーション／ピアレビュー／ディスカッション／グループワーク／フィールドワーク

授業の進め方の概要	<p>○第1回目の授業で、本学の教員養成目標及び本科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の流れを説明します</p> <p>○上記科目概要に記した内容を深めるために、講義で提示した主題に対しリサーチを行い、それをもとに繰り返されるグループワークなどアクティブラーニングとICT活用教育を基本とします</p> <p>○この科目の学びを通して、家政学部ディプロマポリシーにおける〈主体的に学び、諸課題に対処できる総合的な判断力と豊かな人間性を育む〉ことに資することができます</p> <p>○レポートなど方法については講義で順を追っていねいに説明するので、少しずつ思考や取り組みを深化させていくことができます</p> <p>○レポート提出時には必ずグループワークを行い、他者との比較を通して得た新たな見解を総合化し、それを追記した上で提出します</p> <p>○提出されたレポートは次回のレポートへ活かせるよう、コメントを加えて返却します</p> <p>○kyonetのクラスプロフィールで、授業前に授業内容や事前・事後学修を知ることができるので確認しましょう</p> <p>○ルーブリック評価に基づき、課題については授業中にコメントするとともに、提出されたレポートについてはコメントして返却しますので適宜改善していきましょう</p> <p>○家族・保育領域の教材研究としての児童学科付設〈はるにれ〉の見学を行います</p> <p>○教育・保育に関するボランティア活動や学校見学等を通して家庭科の内容を深める方法をもって、この科目の充実を図ることができます</p> <p>※授業がオンライン化された場合には、授業方法、課題、課題の提出方法などに変更が生じることがあります。</p>
-----------	---

第1回		
事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の〈教員養成目標〉とこの科目の到達目標、カリキュラムマップに記載のディプロマ・ポリシーとの対応関係、履修系統図を用いた当該科目の教育課程上の位置付けとその後の履修の流れを確認しておく ・ ルーブリック評価を確認する ・ 前期の学習を概観しておく ・ 前期に出された課題の提出準備 	1.5時間
授業内容	<p>【主題1】〈家庭科教育の理論と実践〉へのアプローチを知る 「この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します」</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目への視座、目標、日程、概要及び評価方法と家政学部ディプロマ・ポリシーとルーブリック評価規準を理解し、目標を確認する ・ 〈教員養成目標〉を理解する ・ 後期への見通しと履修意義を確認する ・ ルーブリック評価規準を確認する ・ kyonetのクラスプロファイルの活用を知る（授業前に配信されるので、事前・事後学修を確認することができる） <p>【学修活動】HPやkyonet上のシラバスを各自リサーチするとともに、kyonet クラスプロファイルの活用の仕方を知る</p> <p>=====</p> <p>【主題2】前期からの課題：家庭科の施設・設備を考える1－視点と意義</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、指導案ルーブリック通して視点を確認する ・ レポートをもとに、指導細案についてミニ模擬授業を行い、模擬授業ルーブリックの視点で検討する <p>【学修活動】主題に対する指導細案と模擬授業のルーブリック評価を行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏期休暇の課題を整理する ・ 資料を精読する ・ 学内施設設備点検・計測 	3時間
第2回		
授業内容	<p>【主題】前期からの課題：家庭科の施設・設備を考える2－視点と意義</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、指導案ルーブリック通して視点を確認する ・ レポートをもとに、指導細案についてミニ模擬授業を行い、模擬授業ルーブリックの視点で検討する <p>【学修活動】主題に対する指導細案と模擬授業のルーブリック評価を行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高時代の施設設備を思い起こす ・ 細案レポートの提出準備を行う 	3時間
第3回		
授業内容	<p>【主題】家庭科の施設・設備を考える3－視点と意義</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、指導案ルーブリック通して視点を確認する ・ レポートをもとに、指導細案についてミニ模擬授業を行い、模擬授業ルーブリックの視点で検討する <p>【学修活動】主題に対する指導細案と模擬授業のルーブリック評価を行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートの完成のために内容を整える 	3時間
第4回		
授業内容	<p>【主題】教材研究1－高齢社会と教育を考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、夏期休暇中に見学した高齢者施設の報告と討論する ・ 家庭科教育への示唆をまとめる <p>【学修活動】主題に対するグループワークを行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートを作成する ・ 中高の家庭科教科書を精読する 	3時間
第5回		
授業内容	<p>【主題】教材研究2－消費者問題と教育①について考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、夏期休暇中に見学した高齢者施設の報告と討論する ・ 家庭科教育への示唆をまとめる <p>【学修活動】主題に対するグループワークを行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5回目の論点を整理して6回目に向けてレポートを作成する 	3時間
第6回		

授業内容	<p>【主題】教材研究3－消費者問題と教育②について考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートをもとに、夏期休暇中に見学した高齢者施設の報告と討論する ・家庭科教育への示唆をまとめる <p>【学修活動】主題に対するグループワークを行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートを作成する ・講師への質問を考える 	3時間
第7回		
授業内容	<p>【主題】学外講師の講話－中学校編 堀木・細梅恭子先生</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話より、教師の教科観と中学校家庭科の特徴と独自性を知る ・中学生の特徴を理解する <p>【学修活動】講話後、質疑応答ののち、グループワークにより知見を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・論点を整理する ・レポートを作成しWeb提出する 	3時間
第8回		
授業内容	<p>【主題】・指導案の書き方1</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる教材研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の書き方1－指導案の本質を知る ・指導案事例からの気づき <p>【学修活動】既存の指導案事例に目通ししたのち、指導案の本質を探る</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第10章指導案の書き方、資料の通読・論点整理 ・PC操作確認する 	3.5時間
第9回		
授業内容	<p>【主題】指導案の書き方2</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる教材研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の書き方2－指導案の題材名・目的 ・指導案事例からの気づき <p>【学修活動】既存の指導案事例に目通ししたのち、指導案における題材と目標を探る</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・資料通読・論点整理する 	3.5時間
第10回		
授業内容	<p>【主題】指導案の書き方3</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる教材研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の書き方3－指導案の評価規準 ・指導案事例からの気づき <p>【学修活動】既存の指導案事例に目通ししたのち、指導案における評価規準を探る</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・資料通読・論点を整理する ・夏期休暇中のレポート課題を整理する 	3.5時間
第11回		
授業内容	<p>【主題】教材研究4－新聞を利用した資料の検討をする</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートをもとに、夏期休暇中に収集した新聞の報告 ・家庭科教育への示唆をまとめる <p>【学修活動】主題に対するグループワークを行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・資料通読・論点整理 ・指導案1の作成を行う 	3.5時間
第12回		
授業内容	<p>【主題】指導案1の検討〈家庭科のガイダンス〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導案についてグループワークで指導案ルーブリックに基づき助言し合う ・改善の視点を見出す <p>【学修活動】作成した指導案についてペアワーク・グループワークを通して、改善への多様な助言を受けるとともに、適切な指摘を行う</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案1の修正（ルーブリックによる改善） 	3.5時間
第13回		
授業内容	<p>【主題】指導案2の検討〈衣生活・食生活教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導案についてグループワークで指導案ルーブリックに基づき助言し合う 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・改善の視点を見出す 【学修活動】 作成した指導案についてペアワーク・グループワークを通して、改善への多様な助言を受けるとともに、適切な指摘を行う	
事後学修・次回事前学修	○指導案の構想の発表を準備する	3.5時間
第14回		
授業内容	【主題】 模擬授業と指導案1の検討〈家庭科のガイダンス〉1 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する 【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の作成 ・模擬授業1-1へのループリック評価票の記入 	4時間
第15回		
授業内容	【主題】 模擬授業と指導案1の検討〈家庭科のガイダンス〉2 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する 【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案2の作成と構想を練る ・模擬授業1-2へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第16回		
授業内容	【主題】 模擬授業と指導案2の検討〈衣生活・食生活〉1 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認するー効果のあるICT教材の検討とデジタル教科書の使用 ・検討を行い適切に助言する 【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正を行う ・4年生への質問を考える 	4時間
第17回		
授業内容	【主題】 4年生による教育実習後のワークショップ 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習と教員採用試験の体験談から、自分の将来を考える ・それぞれの具体的な自己課題をワークショップを通して自覚する 【学修活動】 4年生の教育実習に関する講話と模擬授業、教員採用試験の情報を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの完成 ・指導案の完成 	3.5時間
第18回		
授業内容	【主題】 年間指導計画の立案の視点を考える 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の所在 ・指導計画の種類を知る ・指導計画事例を概観する ・指導計画の書き方を知る 【学修活動】 教科書会社のHPや教育委員会のHPなど、Web上の信頼できる情報から年間指導計画事例を概観し、年間指導計画の構想を考える	
事後学修・次回事前学修	・論点整理と構想を練る	3時間
第19回		
授業内容	【主題】 模擬授業と指導案3-1の検討〈中学校における消費者教育〉 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認するー効果のあるICT教材の検討とデジタル教科書の使用 ・検討を行い適切に助言する 【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業3-1へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第20回		

授業内容	<p>【主題】模擬授業と指導案3-2の検討〈高校における消費者教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する一効果のあるICT教材の検討 ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業3-2へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第21回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業と指導案4-1の検討〈新聞記事を活かした家族・家庭・子どもに関する教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する一効果のあるICT教材の検討 ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業4-1へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第22回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業と指導案4-2の検討〈高校における高齢社会教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する一効果のあるICT教材の検討 ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業4-2へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第23回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業と指導案5の検討〈SDGsと家庭科のカリキュラム・マネジメントによる教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する一効果のあるICT教材の検討 ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業5へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第24回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業6-1〈自由課題〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導案の計画 ・発表準備 ・模擬授業6-1へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第25回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業6-2〈自由課題〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導案の計画 ・発表準備 ・模擬授業6-2へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第26回		
授業内容	<p>【主題】年間指導計画案一発表と討論</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成してきた年間指導計画について、指導案への基本的理念を理解する ・樹上構成、配列、時間数などから他者の教科観の独自性を知るとともに、自身の長を捉える <p>【学修活動】作成してきた指導計画案をグループワークを通して意見交換するとともに、全体で共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案構想の論点整理を行う 	3.5時間
第27回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業6-3〈自由課題〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ルーブリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにルーブリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業6-2へのルーブリック評価票の記入 ・論点整理 ・総括レポートの作成 ・居住地の教員採用試験制度と教育委員会の教育方針のリサーチ 	3.5時間
第28回		
授業内容	<p>【主題】 家庭科教育の理論と実践の総括と教育実習と教職を考える</p> <p>【学修課題】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生の指導案事例を分析する ・居住地の教員採用試験制度と教育委員会の教育方針のリサーチ方法を探る ・家庭科教育の総括ルーブリック評価規準に照らした成果と自己課題について発表する ・ICT機器の教材としての問題や可能性を考える <p>【学修活動】 教育実習生の指導案事例や教員採用試験への具体的な示唆を探究したのち、自らの1年間の家庭科教育を振り返り、科目ルーブリックに抛り成果と自己課題と家庭科教育の可能性をスピーチする</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・総括レポートの作成 ・作成した資料の整理 	3.5時間

評価の基準	S	A	B	C	D	X
	100～90点	89～80点	79～70点	69点～60点	59点以下	—
	到達目標を超えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している	単位修得目標を達成している	単位修得目標を達成できていない	受験資格無、レポート・課題未提出等
評価の方法と配分	<p>○評価対象者となるのは、家政学部の出席規定に抛る</p> <p>○主として指導案（レポート）と模擬授業による</p> <p>○さらにレポートにかかわるリサーチ、それに基づくグループワークでの発言など協働する姿勢も含む</p> <p>○配分：①指導案課題の内容（70%）②グループワークや模擬授業における参加・協働性（20%）③文献リサーチなどへの取り組み姿勢（10%）</p> <p>※授業がオンライン化された場合には、授業方法、課題、課題の提出方法などに変更が生じることがあります。</p>					

評価基準ルーブリック	家政学部ディプロマ・ポリシーに連なるルーブリック評価表					
		S	A	B	C	D
	DP1-1-2 客観性・自律性【専門知識】	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から総合的に理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ高い使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割や使命を理解することができる	中等教育課程における家庭科教育を理解し、教師としての役割を理解することができる	中等家庭科教育の位置や内容と教職の使命について理解することができない
DP1-3 客観性・自律性【主体的判断力】	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を総合的に理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、その諸課題	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育と結び付けて考え他者に説	中等家庭科の目標や内容の探究過程において家庭科教育の意義を考え、他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において問題の認識や自己の課題を主体的に考えようとすることができない	

	その諸課題を自ら引き受ける主体的で内省的な判断や思考を他者に説明することができる	を自ら引き受ける主体的思考を他者に説明することができる	明することができる		
DP2 課題発見・解決力	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して自己の教科観を的確かつ豊かな創造性や独自性をもって表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して自己の教科観を的確かつ創造性をもって表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して教科観を的確に表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して教科観を表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程においてリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して所与された課題に対し表現することができない
DP3 リーダーシップ	教員養成目標に鑑み、生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題について、自らの教科観や教師像を評価指標であるルーブリック（「指導案ルーブリック」や「模擬授業ルーブリック」含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、創造的で新しい家庭科教育を構築することができる	生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題について、自らの教科観や教師像を評価指標であるルーブリック（「指導案ルーブリック」や「模擬授業ルーブリック」含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、家庭科教育を構築することができる	現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題についてルーブリックに照らし他者と意見を交換しあい、家庭科教育の現状をとらえることができる	家庭科教育について、他者との意見交換を通して考えることができる	生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題について、自らの教科観や教師像をもって他者と協力・協働することができない

テキスト	<p>以下、前期科目「家庭科教育の理論と方法」と同じ 家庭科教育法 改訂版,佐藤文子・川上雅子,高陵社, 2010年, ¥2000 + 税 小学校学習指導要領解説 家庭編,文科省,東洋館出版,2017, ¥95 + 税 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編,文科省,開隆堂,2018, ¥143 + 税 高等学校学習指導要領解説 家庭編,文科省,教育図書,2019 ¥462 + 税 小学校家庭科教科書 1冊 (288円) 中学校家庭科教科書 2冊 (680円×2) 高等学校家庭科教科書 2冊 (585円+791円)</p>
参考文献・参考Webサイト等	<p>〈学習指導要領関係〉 ・文部科学省HP ・国立教育政策研究所HP 〈授業研究関係〉 ・日本家庭科教育学会HP ・中高家庭科教科書出版社HP (開隆堂HP、東京書籍HP、教育図書HP、大修館HP、実教出版HPなど)</p>

課題図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				

履修者へのメッセージ	<p>川上雅子研究室：3号館6階603A (家庭科教育研究室) 月曜日・水曜日昼休み在室 ○介護等体験、臨地実習などの欠席届は、なるべく早く提出すること</p>
------------	--

共通教育センター運営会議		委員
1)センター長	全学教育推進機構員	◎ 藤田 雅夫
3)教養分科会委員長	国際学部	石井 久生
3)語学分科会委員長	文科	鶴田 達成
3)情報リテラシー分科会委員長	文芸学部	福田 收
3)教職課程分科会委員長	文芸学部	谷田貝 雅典
3)学芸員課程分科会委員長	家政学部	古川 咲
4)大学事務部長		須貝 成司
5)教務課長		國守 浩輔
6)学生支援課長		宮澤 康子
7)機構長が指名する教員および職員	看護学部	岸田 泰子
7)機構長が指名する教員および職員	建築・デザイン学部	稲葉 唯史
7)機構長が指名する教員および職員	高等教育開発センター員	湯浅 且敏
7)機構長が指名する教員および職員	リーダーシップ教育センター長	岩城 奈津
7)機構長が指名する教員および職員	社会連携センター長	深津 謙一郎
7)機構長が指名する教員および職員	大学企画課教学企画グループリーダー	平井 厚子
7)機構長が指名する教員および職員	学生支援課キャリア支援グループリーダー	野田 豊樹
7)機構長が指名する教員および職員	教務課教務グループリーダー	松尾 理代

- ◎:委員長
- ・任期:2024年4月1日～2025年3月31日
- ・再任を妨げない。
- ・分科会の委員長は機構長が任命する。

教養分科会	委員
家政学部	村上 康子
文芸学部	深津 謙一郎
国際学部	◎ 石井 久生
看護学部	岸田 泰子
ビジネス学部	岩城 奈津
建築・デザイン学部	稲葉 唯史
生活科学科・文科	三井 直樹
体育	中島 早苗
キャリア教育	田野 恵
リーダーシップ教育	湯浅 且敏
共通教育センター運営会議委員	平井 厚子
共通教育センター運営会議委員	野田 豊樹
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	山中 大樹
共通教育センター長が必要と認める者	橋本 嘉代

語学分科会	委員
家政学部	清水 明子
文芸学部	國分 建志
国際学部	高野 麻衣子
看護学部	久保 正子
ビジネス学部	秦 小紅
建築・デザイン学部	田中 裕子
生活科学科・文科	◎ 鶴田 達成
共通教育センター運営会議委員	平井 厚子
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	ブラッドリー・アーウィン
共通教育センター長が必要と認める者	田口 亜紀
共通教育センター長が必要と認める者	岡見 さえ

情報リテラシー分科会	委員
家政学部	古川 貴雄
文芸学部	◎ 福田 收
国際学部	細野 豊樹
看護学部	山住 康恵
ビジネス学部	金城 敬太
建築・デザイン学部	藤本 麻紀子
生活科学科・文科	堀岡 勝
共通教育センター運営会議委員	平井 厚子
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	小國 美由紀

拡大教職課程分科会	委員
共通教育センター	◎ 藤田 雅夫
家政学部	小原 敏郎
文芸学部	谷田貝 雅典
国際学部	西村 史子
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	矢後 敦子
共通教育センター長が必要と認める者	安藤 嘉奈子
共通教育センター長が必要と認める者	川上 雅子
共通教育センター長が必要と認める者	ブラッドリー・アーウィン
共通教育センター長が必要と認める者	岡田 ひろみ

学芸員課程分科会	委員
家政学部	◎ 古川 咲
文芸学部	池上 公平
国際学部	橋川 俊樹
建築・デザイン学部	福田 一郎
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	矢後 敦子
共通教育センター長が必要と認める者	梅沢 恵

教職課程分科会	委員
家政学部	安藤 嘉奈子
文芸学部	◎ 谷田貝 雅典
国際学部	西村 史子
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	矢後 敦子
共通教育センター長が必要と認める者	川上 雅子
共通教育センター長が必要と認める者	ブラッドリー・アーウィン
共通教育センター長が必要と認める者	岡田 ひろみ

幼少分科会	委員
家政学部	◎ 小原 敏郎
家政学部	清水 秀夫
教務課長	國守 浩輔

授業コード・科目名・クラス	19132 教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)_02
科目区分	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：諸資格に関する科目
開講年度・学期	2024年度前期
授業担当者	西村 史子
履修年次	4年
単位数	5単位
授業回数	14
担当教員の実務経験	
備考	<p>授業で課した課題（レポート、テスト等）に対するフィードバックは、以下のいずれかの方法で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該授業内または次回以降の授業内における解説・講評 ・kyonet等を通じた解説・講評 ・提出物に対する添削・返却 <p>Feedback on class assignments (reports, tests, etc.) will be given in one of the following ways:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・During the class or in the next class. ・Comments and criticism via kyonet, etc. ・Correction and return of submitted work.

カリキュラム・マップ	<p>教職課程（中学校教諭一種・高等学校教諭一種）履修系統図 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2022nendo/risyukeitouzu.kyoshoku.pdf この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します。</p>
科目概要	<p>「教育実習（事前・事後指導を含む）」は、事前指導・実習・事後指導の3段階に分かれている。事前授業の目的は、学生ひとりひとりが実習の意義について自らに引き付けて考え、意欲と目的意識をもって実習に臨もうとする姿勢を身に付けることである。そのため教育実習の意義や目的について説明した後に、その実務に関する基本事項の確認を行う。次に、教師役の希望者を募り、教師役以外の履修者を生徒役として、模擬授業を行う。教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度・行動に留意し、観察・参加・学習指導を中心に活動を行う。事後指導では、自らの体験を整理し総括することを中心課題とする。</p>
到達目標（成績評価A）	<ol style="list-style-type: none"> 1.事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する積極的な関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する適切な自己課題を設定することができる。 2.事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な総合的な知識・情報を習得することができる。 3.教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的かつ丁寧に行い、十分に適切な教材選択ができる。 4.教育実習では、個々の生徒や集団の状況をよくつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して綿密で適切な指導計画を作成することができる。 5.教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、適切な説明・発問・板書等を行って、包括的な学習の目標を達成することができる。 6.教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、効果的な生徒指導・学級経営を行うことができる。 7.教育実習では、教育実習生として十分にふさわしい態度をもって、自発的かつ協働的に勤務できる。 8.事後指導を通して、教育実習の体験過程を詳細に振り返り、十分な整理を行うとともに、今後の課題について見極めることができる。
単位修得目標（成績評価C）	<ol style="list-style-type: none"> 1.事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する自己課題を設定することができる。 2.事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な基本的な知識・情報を習得することができる。 3.教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的に行い、適切な教材選択ができる。 4.教育実習では、個々の生徒や集団の状況をつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して基本的な指導計画を作成することができる。 5.教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、説明・発問・板書等を行って、基本的な学習の目標を達成することができる。 6.教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、基本的な生徒指導・学級経営を行うことができる。 7.教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度をもって勤務できる。 8.事後指導を通して、教育実習の体験過程を振り返り、基本的な整理を行うことができる。

授業区分	対面授業
授業形態	実習
授業方法	リアクションペーパー／レポート／ピアレビュー／ディスカッション／ロールプレイ／フィールドワーク／PBL(Problem/Project Based Learning)

授業の進め方の概要	<p>教育実習は、教職課程の指定履修科目や専門科目で学んだことを核に、それまで積み上げられた教養や研究の成果を、学校現場で現職教職員の指導を受けながら教育実践に携わり、確認・応用する場である。学習指導や生徒指導をとおり、現場ならではの技術を身につけ、生徒への理解を深め、生徒や同僚とのコミュニケーションの大切さに気づく。そして、校務分掌等の教職員の他の業務を観察し、一部担当しながら、あらためて教壇に立つ自覚を深め、自らの課題を見極めることになる。</p> <p>(1)事前指導は6-8回を予定し、実習の目的と意義・段階・心構え、実習日誌の扱い等について説明を受け、諸注意事項を確認し、模擬授業を実施して、実習への準備をする。(2)教育実習は5月下旬から7月にかけて3-4週間、東京都の公立学校や各自の出身校等でおこなわれ、担当教諭等の指導を受ける。秋に教育実習の場合もある。(3)事後指導は7月に2回を予定し、報告会をもち、実習体験者どうしの交流をとおり各自の経験を整理し、反省をレポートにまとめる。</p> <p>事前指導第4-6回ほど予定の模擬授業については、履修者の教育実習の日程、免許教科等を勘案して担当日及び持ち時間を検討。第1,2回授業で調整する。</p>
-----------	---

第1回		
事前学修	<p>実習校と連絡調整を行い、直前オリエンテーションの日程、担当学年・学級の学習進度や担当予定の範囲を確認しておく。</p> <p>「実習の課題」(A4版)他の提出書類を作成し、用意する。</p> <p>「実習日誌」(兼テキスト)の代金を用意しておく。</p> <p>大学教員に訪問指導を依頼する学生(東京都内の実習予定者、実習校より大学に訪問指導の要請がある者)は、予定の教員に挨拶をしておく。一般には、卒ゼミ担当教員。</p>	2時間
授業内容	<p>教育実習の意義と目的</p> <p>教員となるには、原則として教育職員免許法に定められた大学教育を受け、単位を修得し、教員免許状を取得しなければならない。そのための必修科目である「教育実習」の位置付け、その意義と目的を理解し、実習に向かう姿勢や意識を整える。自身の到達目標や課題を設定する。実習日誌(兼テキスト)他、必要な授業用資料を受け取る。</p> <p>なお、本授業科目は教職課程の集大成ともいえ、3年次までの履修指定科目で修得した知識・技能を活かし、学校で実践的指導を行い、自らの指導技術を確立するものとなる。また、教育実習無くして教員免許状取得はあり得ない。生涯一度きりの経験となる。</p> <p>*本授業科目の到達目標、カリキュラムマップに記載のディプロマ・ポリシーとの対応関係、履修系統図を用いた当該科目の教育課程上の位置付けとその後の履修の流れについて説明を受ける。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>〔事後学修〕</p> <p>教育実習事前・事後指導及び実習期間の日程を確認し、スケジュール調整を行う。</p> <p>実習校と連絡調整を行い、直前オリエンテーションの日程・時程、担当学年・学級の学習進度や担当予定の範囲を確認しておく。</p> <p>実習で使用予定の教科書を購入し、目を通しておく。新学習指導要領の全面実施(中学校2021年度～)、学年進行での実施(高等学校2022年度～)時期でもある。全学年分を確認するのが望ましい。担当学年のデジタル教科書(学習者用)も必要かもしれない。教科書会社のサイトから、利用できる教材をダウンロードしよう。</p> <p>教科書の価格は、次のURL参照。アマゾンや本屋さんを通じて購入可能。 http://www.textbook.or.jp/textbook/textbook-price.html</p> <p>〔事前学修〕</p> <p>実習日誌、配付資料「令和4年度 教育実習はどのように行われたか」に目を通し、教育実習の概要を掴む。</p>	4時間
第2回		
授業内容	<p>教育実習の段階・方法</p> <p>「観察」/「参観」の視点、「参加」実習での注意、「教壇」実習まで、教科指導や生徒指導に関わる具体的な準備や教員としての弁えを学ぶ。(1)学習指導における教材研究や教材解釈の重要性、(2)生徒の日常生活を観察し、積極的な交流を通してその発達状況や抱える課題を把握する必要性を理解し、(3)教職員の経験や知見から謙虚かつ適切に学習指導や生徒指導を進める姿勢を身につける。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>〔事後学修〕</p> <p>kyonetにアップロードされた授業資料に目を通し、教育実習における自身の心構えや課題をあらためて整理する。</p> <p>実習校と連絡調整を行い、直前オリエンテーションの日程、担当学年・学級の学習進度や指導の範囲を確認しておく。</p> <p>実習で使用予定の教科書を購入し目を通しておく。担当予定の単元の狙い・目的を把握し、教材研究を進める。実習校の「年間指導計画」「単元指導計画」などを入手するのが望ましい。</p> <p>実習校の行事日程を確認し、必要な携行品を用意する。</p> <p>〔事前学修〕</p> <p>実習日誌、配付資料「令和4年度 教育実習はどのように行われたか」に目を通し、教育実習の概要を掴む。</p>	4時間
第3回		
授業内容	<p>教育実習の実際(1)</p> <p>教育実習の開始から終了までの流れをつかむ。一日の勤務の様子や、指導教員・生徒とのコミュニケーションの取り</p>	

		方、各種行事や校務での参加のあり方、学級経営を一部担う際のポイント、教壇実習の準備・実施・反省などのスケジュールを、前年度実習生の資料を検討し、DVDを視聴しながら把握する。実習後の挨拶や御礼の手紙の書き方などを身につける。	
	事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修] kyonetにアップロードされた授業資料に目を通し、3週間の教育実習の段階及び流れを確認する。実習で使用予定の教科書を購入し目を通しておく。担当予定の単元の評価規準及び基準を確認し、授業計画・指導案（原案）を作成しておく。実習校に指導案等の書式があれば、書式ファイル等入手する。</p> <p>教職課程研究室ファイル保管あるいは教務課保管の過年度生指導案、教員が紹介した都道府県教育委員会等の模範指導案などを確認し、参考になる指導案をコピーしておく。</p> <p>[次回事前学修] 実習日誌の記入上の注意、配付資料「令和4年度 教育実習はどのように行われたか」に目を通し、日常勤務の見直しを立てる。</p>	4時間
第4回			
	授業内容	<p>教育実習の実際（2）</p> <p>教育実習で毎日記入する実習日誌の使い方や、教科指導や生徒指導で必要とする教材・教具の使い方を学ぶ。授業の進め方の実際をDVDを視聴しながら理解する。</p> <p>模擬授業の配当日を確認する。実習開始日に応じ、前倒して模擬授業を行う場合がある。一人15-20分の予定。</p>	
	事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修] kyonetにアップロードされた授業資料を確認、配布資料（実習日誌の記入サンプルなど）を再読し、疑問点を整理しておく。</p> <p>[次回事前学修] 使用予定の教科書を購入し目を通しておく。担当予定の単元の評価規準及び基準を確認し、授業計画・指導案（原案）を作成しておく。</p> <p>実習校での直前オリエンテーションを済ませておく。教壇実習までの大体の予定、日程を確認しておく。</p> <p>実習校でのICT機器の利用状況、教材作成に要するコピー機や印刷機の使い方、指導教員の授業方針や方法など把握しておく。</p> <p>実習校の年間指導計画（担当教科分）を入手し、担当予定の単元の位置づけを理解する。</p> <p>実習校の行事内容や校務分掌の情報を入手し、参加希望の校務領域を願い出しておく。</p> <p>大学教員の訪問指導を受ける学生は、予定の教員と訪問の日程・時程について連絡調整をする。これは、教育実習まで継続する。</p>	4時間
第5回			
	授業内容	<p>模擬授業（1）</p> <p>実際に、専門教科の指導案及び副教材を作成し、15-20分ほどの授業を教員として実践する。当日に指定された箇所を指導する。自身の不十分な知識・技能を自覚し、改善点を整理する。模擬授業を担当しない学生は、生徒として授業に参加する。</p>	
	事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修] クラスメートの指導内容、授業の進行手順、立居振舞い(声の大きさ、話しぶり、身だしなみ等含む)、模擬授業への大学教員のコメントなどを参考に、自らの指導技術を改善する。</p> <p>[次回事前学修] 使用予定の教科書を購入し目を通しておく。担当予定の単元の評価規準及び基準を確認し、授業計画・指導案（原案）を作成しておく。</p>	4時間
第6回			
	授業内容	<p>模擬授業（2）</p> <p>実際に、専門教科の指導案及び副教材を作成し、15-20分ほどの授業を教員として実践する。当日に指定された箇所を指導する。自身の不十分な知識・技能を自覚し、改善点を整理する。模擬授業を担当しない学生は、生徒として授業に参加する。</p>	
	事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修] クラスメートの指導内容、授業の進行手順、立居振舞い(声の大きさ、話しぶり、身だしなみ等含む)、模擬授業への大学教員のコメントなどを参考に、自らの指導技術を改善する。</p> <p>[事前学修] 教育実習で使用予定の教科書を購入し、担当学年の学習範囲を中心に教材研究をする。担当予定の単元の評価規準及び基準を確認し、授業計画・指導案（原案）を作成しておく。</p>	4時間
第7回			
	授業内容	<p>実習校での教育実習</p> <p>教職員の日常生活、学習指導、生徒指導、他諸校務を観察し、また協働で業務に携わりながら、教師の仕事及び学校運営への理解を深める。担当の教諭から指導・助言を受け、補助的な指導を受け持ちつつ、対象生徒の状態を掴み、効果的な指導のあり方・技術を習得し、教壇実習を行う。担当した授業の実践を振り返り、反省点を改善し、実習の集大成となる研究授業を校内で公開する。その後の反省会を通じて、自身の教科の専門性や生徒理解の程度、学級経</p>	

		<p>営のスキル、教師としての資質や適性をあらためて確認し、教員採用試験に向けて本格的に態勢を整える。あるいは、自身の課題を整理し、後期の「教職実践演習」で学び補充すべき領域の知識・技能について見通しを立てる。</p>	
	事後学修・次回事前学修	<p>入念な教材研究をする。 実習校の教員や生徒と積極的に交流する。 実習日誌の記入、提出、返却受取り。</p> <p>大学教員の訪問指導を受ける学生は、予定の教員と訪問の日程・時程について連絡調整をする。</p>	2時間
第8回			
	授業内容	<p>実習校での教育実習</p> <p>教職員の日常生活、学習指導、生徒指導、他諸校務を観察し、また協働で業務に携わりながら、教師の仕事及び学校運営への理解を深める。担当の教諭から指導・助言を受け、補助的な指導を受け持ちつつ、対象生徒の状態を掴み、効果的な指導のあり方・技術を習得し、教壇実習を行う。担当した授業の実践を振り返り、反省点を改善し、実習の集大成となる研究授業を校内で公開する。その後の反省会を通じて、自身の教科の専門性や生徒理解の程度、学級経営のスキル、教師としての資質や適性をあらためて確認し、教員採用試験に向けて本格的に態勢を整える。あるいは、自身の課題を整理し、後期の「教職実践演習」で学び補充すべき領域の知識・技能について見通しを立てる。</p>	
	事後学修・次回事前学修	<p>入念な教材研究をする。 実習校の教員や生徒と積極的に交流する。 実習日誌の記入、提出、返却受取り。</p> <p>大学教員の訪問指導を受ける学生は、予定の教員と訪問の日程・時程について連絡調整をする。</p>	2時間
第9回			
	授業内容	<p>実習校での教育実習</p> <p>教職員の日常生活、学習指導、生徒指導、他諸校務を観察し、また協働で業務に携わりながら、教師の仕事及び学校運営への理解を深める。担当の教諭から指導・助言を受け、補助的な指導を受け持ちつつ、対象生徒の状態を掴み、効果的な指導のあり方・技術を習得し、教壇実習を行う。担当した授業の実践を振り返り、反省点を改善し、実習の集大成となる研究授業を校内で公開する。その後の反省会を通じて、自身の教科の専門性や生徒理解の程度、学級経営のスキル、教師としての資質や適性をあらためて確認し、教員採用試験に向けて本格的に態勢を整える。あるいは、自身の課題を整理し、後期の「教職実践演習」で学び補充すべき領域の知識・技能について見通しを立てる。</p>	
	事後学修・次回事前学修	<p>入念な教材研究をする。 実習校の教員や生徒と積極的に交流する。 実習日誌の記入、提出、返却受取り。</p> <p>大学教員の訪問指導を受ける学生は、予定の教員と訪問の日程・時程について連絡調整をする。</p>	2時間
第10回			
	授業内容	<p>実習校での教育実習</p> <p>教職員の日常生活、学習指導、生徒指導、他諸校務を観察し、また協働で業務に携わりながら、教師の仕事及び学校運営への理解を深める。担当の教諭から指導・助言を受け、補助的な指導を受け持ちつつ、対象生徒の状態を掴み、効果的な指導のあり方・技術を習得し、教壇実習を行う。担当した授業の実践を振り返り、反省点を改善し、実習の集大成となる研究授業を校内で公開する。その後の反省会を通じて、自身の教科の専門性や生徒理解の程度、学級経営のスキル、教師としての資質や適性をあらためて確認し、教員採用試験に向けて本格的に態勢を整える。あるいは、自身の課題を整理し、後期の「教職実践演習」で学び補充すべき領域の知識・技能について見通しを立てる。</p>	
	事後学修・次回事前学修	<p>入念な教材研究をする。 実習校の教員や生徒と積極的に交流する。 実習日誌の記入、提出、返却受取り。</p> <p>大学教員の訪問指導を受ける学生は、予定の教員と訪問の日程・時程について連絡調整をする。</p>	2時間
第11回			
	授業内容	<p>実習校での教育実習</p> <p>教職員の日常生活、学習指導、生徒指導、他諸校務を観察し、また協働で業務に携わりながら、教師の仕事及び学校運営への理解を深める。担当の教諭から指導・助言を受け、補助的な指導を受け持ちつつ、対象生徒の状態を掴み、効果的な指導のあり方・技術を習得し、教壇実習を行う。担当した授業の実践を振り返り、反省点を改善し、実習の集大成となる研究授業を校内で公開する。その後の反省会を通じて、自身の教科の専門性や生徒理解の程度、学級経営のスキル、教師としての資質や適性をあらためて確認し、教員採用試験に向けて本格的に態勢を整える。あるいは、自身の課題を整理し、後期の「教職実践演習」で学び補充すべき領域の知識・技能について見通しを立てる。</p>	

事後学修・次回事前学修	<p>入念な教材研究をする。 実習校の教員や生徒と積極的に交流する。 実習日誌の記入、提出、返却受取り。</p> <p>大学教員の訪問指導を受ける学生は、予定の教員と訪問の日程・時程について連絡調整をする。</p>	2時間
第12回		
授業内容	<p>実習校での教育実習</p> <p>教職員の日常生活、学習指導、生徒指導、他諸校務を観察し、また協働で業務に携わりながら、教師の仕事及び学校運営への理解を深める。担当の教諭から指導・助言を受け、補助的な指導を受け持ちつつ、対象生徒の状態を掴み、効果的な指導のあり方・技術を習得し、教壇実習を行う。担当した授業の実践を振り返り、反省点を改善し、実習の集大成となる研究授業を校内で公開する。その後の反省会を通じて、自身の教科の専門性や生徒理解の程度、学級経営のスキル、教師としての資質や適性をあらためて確認し、教員採用試験に向けて本格的に態勢を整える。あるいは、自身の課題を整理し、後期の「教職実践演習」で学び補充すべき領域の知識・技能について見通しを立てる。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>〔事後学修〕 実習日誌の記入、提出、返却受取り。 実習日誌に「実習の感想」を記入する。 「実習の総括」(A4版)をはじめ、提出書類等を整える。締切日(概ね、実習終了後2週間以内)までに教務課カウンターまで持参。 〔事前学修〕 反省報告会の順番及び持ち時間、報告項目を確認する。 反省報告会用の発表原稿、スライドファイルなどを準備する。 概ね日誌を提出してから反省報告会に臨むので、必要な場合は教務課より一時的に日誌を借用し、発表の準備をする。</p>	3時間
第13回		
授業内容	<p>教育実習の反省報告会(1)</p> <p>設定した課題や到達目標に照らし、実習を総括する。自らの体験を発表するとともに、他の学生の体験報告を受け、実習で得た知識や技術そして反省事項の共有化を図り、今後の課題を明確にする。 *前期の指定時期に実習を終えない者については、これに加えて別に機会を設け、反省報告会を実施する。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>〔事後学修〕 実習日誌に「実習の感想」を記入する。 「実習の総括」(A4版)をはじめ、提出書類などを整える。締切日(概ね、実習終了後2週間以内)までに教務課カウンターまで持参。 〔事前学修〕 反省報告会の順番及び持ち時間、報告項目を確認する。 反省報告会用の発表原稿、スライドファイルなどを準備する。 概ね日誌を提出してから反省報告会に臨むので、必要な場合は教務課より一時的に日誌を借用し、発表の準備をする。</p>	3時間
第14回		
授業内容	<p>教育実習の反省報告会(2)</p> <p>設定した課題や到達目標に照らし、実習を総括する。自らの体験を発表するとともに、他の学生の体験報告を受け、実習で得た知識や技術そして反省事項の共有化を図り、今後の課題を明確にする。 *前期の指定時期に実習を終えない者については、これに加えて別に機会を設け、反省報告会を実施。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>〔事後学修〕 「実習の総括」レポートの見直し、未履修の教職課程授業科目の点検をする。 教育実習全体を振り返り、後期授業科目「教職実践演習」で身につけたい実践的指導力上の課題をリストアップする。</p>	5時間以上

評価の基準	S	A	B	C	D	X
	100～90点	89～80点	79～70点	69点～60点	59点以下	—
	到達目標を超えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している	単位修得目標を達成している	単位修得目標を達成できていない	受験資格無、レポート・課題未提出等
評価の方法と配分	<p>事前事後指導の履修、教育実習の終了をもって、以下の評価を行う。 事前事後指導での取り組み(模擬授業の準備や実践の適切性及び達成度20%)、提出物や実習日誌の内容(期限遵守の程</p>					

	度、記入の正確性や体裁 10%)および実習校の評価（評価票の評定 70%）を総合的に判断して評価する。
	S：100～90点、A:89～80点、B:79～70点、C:69～60点、D：59点以下 X：受験資格無、レポート・課題未提出等
評価基準ルーブリック	

テキスト	共立女子大学教職課程研究室編 『教育実習日誌』 2023年改訂
参考文献・参考Webサイト等	<p>●指導案作成の際、参考になるサイト。旧学習指導要領下の教科書や旧学習評価の観点が用いられている指導案もあるので注意。授業では、他県教育委員会のサイトも紹介する。中学校は2021年度～、高等学校は2022年度～の指導案（概ね）が、教科書と合わせ、皆さんの指導予定の単元に合致するだろう。</p> <p>1)東京都教職員センター「学習指導案のページ」 https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/08ojt/helpdesk/plans/</p> <p>2)関西大学教職支援センター「学習指導案」 https://www.kansai-u.ac.jp/kyoshoku/student/guideline/index.html</p> <p>●礼状を書く際、参考になるサイト。封書の書き方もわかる。</p> <p>1)日本郵便「手紙の書き方やマナー」 https://www.post.japanpost.jp/culture/howto/</p> <p>2)「手紙の書き方大事典」 https://www.letter110.net/</p>

課題図書

履修者へのメッセージ	<p>2024年度に新型コロナウイルス が学校教育現場に及ぼす影響はまだわからない。2022,23年度はほぼ順調に進んだ。2021年度の場合、開始時期の変更(延期)を伝えてくる実習校が目立った。2020年度では、予定の教育実習はほとんどが延期となり(多くは夏休み以降)、中には2週間に短縮のケースもあった。教育実習4単位分は、学校での総実習時間が120時間以上(毎日の出勤時刻一退勤時刻を加算し合計)で認定される。提供される貴重な指導と限られた時間を有効に使い、各教員の仕事や学校運営の方法を詳細に観察して、そのエッセンスを掴み取って欲しい。また、2021年度に、全国の中学校では新学習指導要領の全面实施となり、新しいカリキュラムが編成されて、新しい教科書を使い、かつGIGAスクール構想により一人一台PC端末が配付されての授業が行われている。2022年4月から、都立高校でも2in1のPCを生徒に購入させている。新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の指導の実際、学習状況評価の観点の変更に伴う指導方法の変化の他、大学入学共通テストの出題方針が中学校・高校教育に与える影響、最新の中教審答申で提言された「個別最適化教育」の実施、学校運営協議会を活用した学校経営改革（全公立学校のコミュニティスクール化）、コロナ禍での学校の危機管理対策がどう進められているかなど、見るべきものは多い。学校教育の大改革が進められる真っ只中で、また学校現場が歴史上例を見ないパンデミックによる混乱をまだまだ引きずっている現状で、本授業科目(教育実習)が皆さんにとって中等教育に携わる現職教員の責務とその労苦を理解するまたとない機会となるよう願う。</p> <p>なお、自己都合による実習中の欠席は、原則認められない。民間企業への就職活動は不可。判明した場合、単位は認定されないので注意されたし。</p> <p>履修人数の都合で、全員が模擬授業を行うことが難しい場合は、各自の申し出及び教員の指名による。</p>
------------	---

授業コード・科目名・クラス	19111 教職実践演習（中・高）_01
科目区分	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：諸資格に関する科目
開講年度・学期	2024年度後期
授業担当者	西村 史子
履修年次	4年
単位数	2単位
授業回数	14
担当教員の実務経験	
備考	<p>授業で課した課題（レポート、テスト等）に対するフィードバックは、以下のいずれかの方法で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該授業内または次回以降の授業内における解説・講評 ・kyonet等を通じた解説・講評 ・提出物に対する添削・返却 <p>Feedback on class assignments (reports, tests, etc.) will be given in one of the following ways:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ During the class or in the next class. ・ Comments and criticism via kyonet, etc. ・ Correction and return of submitted work.

カリキュラム・マップ	<p>教職課程（中学校教諭一種・高等学校教諭一種）履修系統図 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2022nendo/risyukeitouzu.kyoshoku.pdf この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します。</p>
科目概要	<p>大学1-4年生で身につけた教職や教科に関する専門知識と、教育実習で得た教科指導および生徒指導の経験と技術を統合深化させて、発達段階にある子ども達の教育を担う専門職としての責任や使命をあらためて確認し、教育現場で必要とされ自らに不足とする技能を省察し、その向上を図る。そして、実践的指導力を確かなものとするため、具体的には次のような授業方法を組み合わせる。大学教員および現職中学校・高等学校教員によるレクチャーの聴講、近隣の中等教育機関の見学や現職教員へのインタビュー、学校内を想定した生徒指導のロールプレイング、職員会議等に擬した集団討論、模擬授業の計画実施である。これらを通じて、学校現場で要求される上司・同僚・保護者との連携や協力関係の構築、生徒理解と指導の幅広い視点を身につけることが期待される。</p>
到達目標（成績評価A）	<ol style="list-style-type: none"> 1.公教育担当者の自覚をもつことができる。 2.教育実習の経験を反省材料に、教育指導技能の向上を目指して学び続けることができる。 3.教育専門職者として実践的な指導ができるようになる。
単位修得目標（成績評価C）	<ol style="list-style-type: none"> 1.教育実習の経験を反省材料として、教師の仕事について確かな認識をもつことができる。 2.公教育の意味を理解し、その担当者としての資質を十全なものにしようとする態度を身につけることができる。 3.授業計画を立案し、教育指導に必要な必要最低限の技能を行使することができる。 4.教師になる意欲をもち続け、そのための方途を模索することができる。

授業区分	対面授業
授業形態	演習
授業方法	リアクションペーパー／レポート／プレゼンテーション／ピアレビュー／ディスカッション／ディベート／ロールプレイ／フィールドワーク

授業の進め方の概要	<p>本授業科目の目的は、①教員としての使命感や責任感、教育的愛情の涵養、②社会性・対人関係能力・表現力の向上、③生徒理解や学級経営力の精練、④教科内容の基礎知識の充実と指導力の深化を目指し、教員養成の仕上げを図ることである。大学1-4年生で身につけた教職や教科に関する専門知識と、教育実習で得た教科指導および生徒指導の経験と技能を統合深化させて、発達段階にある子ども達の教育を担う専門職としての責任や使命をあらためて確認し、教育現場で必要とされ自らに不足する技能を省察し、その向上を図る。そして、具体的には次のような活動を組み合わせ、実践的指導力を確かなものとする。大学教員および現職中学校・高等学校教員によるレクチャーの聴講、近隣の中等教育機関の見学や現職教員へのインタビュー、学校内を想定した生徒指導のロールプレイング、職員会議等に擬した集団討論、教育実習での反省を踏まえた模擬授業の実施、年間教育計画の作成である。</p> <p>本授業は、大学キャンパス内で対面式授業となる。人数が少ないため、配当教室にてソーシャルディスタンスを確保しながら進める。ただし、今後の新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはオンライン形式も採用する可能性がある。kyonetでの指示連絡に注意されたし。</p>
-----------	--

第1回		
事前学修	<p>本授業科目のシラバスを印刷し、第1回授業に持参する。 前期で終了した教育実習を振り返りつつ、自己紹介の準備をする。</p>	0.5時間

<p>授業内容</p>	<p>ガイダンス</p> <p>(学修活動) 本授業科目の到達目標、カリキュラムマップに記載のディプロマ・ポリシーとの対応関係、履修系統図を用いた当該科目の教育課程上の位置付けとその後の履修の流れについて説明を受け、日程調整をするとともに、学修の見通しを立てる。履修者どうしの自己紹介(取得予定の免許教科、教育実習の経験など含む)を行い、クラスメート及び自身の教職課程の履修状況を把握する。また、模擬授業に必要な教材・教具をあらためて確認する。</p> <p>(学修目標) 教職課程完遂のためにすべきことを把握する。</p>	
<p>事後学修・次回事前学修</p>	<p>[事後学修] 模擬授業(研究授業の再現)について、希望担当日を調整する。</p> <p>[次回事前学修] 実習校での校務分掌や生徒指導の実際を振り返り、討論用に記憶や記録を整理しておく。 文部科学省「文部科学白書」、同省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(最新版 いずれも令和4年度版)、内閣府「子供・若者白書」(最新版 令和5年版)にある「子ども達の問題行動」(非行や不良行為を含む)、などについての報告を読む。参照ウェブサイトについては、次のとおり。 「文部科学白書」http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/monbu.htm 「子供・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h30gaiyou/pdf_indexg.html 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm</p>	<p>3時間</p>
<p>第2回</p>		
<p>授業内容</p>	<p>児童生徒の問題行動の現状と対策</p> <p>(学修活動) 関連省庁の最新報告書や報告資料などから、近年の児童生徒の問題行動の傾向を整理し、実習校での諸問題や教員の指導と照らし合わせ、学校での生徒指導の実際と課題について討論する。また、「チーム学校」の運営を目指し、教員、専門職員、保護者や地域住民にはどのような具体的かつ効果のある連携が求められるのか考究する。各自、教育実習校の校務分掌や学校運営を参考にしつつ、グループ討論を通じて比較検討を行う。</p> <p>(学修目標) 生徒指導に必要とされる知識・情報、適切な教員組織の対応や学校運営について理解する。</p>	
<p>事後学修・次回事前学修</p>	<p>[事後学修] 日本における児童生徒の問題行動等の特徴と新しい指導上の課題について整理し、討論をふまえて、教員に求められる新しい指導力を見出し、レポート(800字程度)を作成・提出する。</p> <p>[次回事前学修] 2017,18年告示の学習指導要領(中学校・高等学校総則編及び各自の免許教科)に目を通しておく。 文部科学省の参照ウェブサイトは以下のとおり。 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</p>	<p>3時間</p>
<p>第3回</p>		
<p>授業内容</p>	<p>児童生徒の新しい教育(1)</p> <p>(学修活動) 2017,18年告示の学習指導要領の概要と特徴をあらためて整理し、今後に期待される小・中・高等学校の新しい教育内容、指導方法を分析する。これに伴い指導要録の改訂と学習状況評価の方法が変更されていることから、教育実習での経験を踏まえ、現在子ども達が習得を期待される資質・能力や教員に要請される指導能力を確認する。</p> <p>(学修目標) 現行学習指導要領の実施に伴う学習評価の観点の変更から、新しい中等教育の学習内容、学習指導の方法を理解する。</p>	
<p>事後学修・次回事前学修</p>	<p>[事後学修] 新学習指導要領の特徴を整理し、クラスメートとの議論を踏まえて、学校教育が直面する課題を指摘するレポート(800字程度)を作成、提出する。</p> <p>[次回事前学修] 配付資料(「大学入学共通テスト」「高校生のための学びの基礎診断」「東京都 中学校英語スピーキングテスト(EAST-J)」について)に目を通しておく。以下のウェブサイトも参考になる。 大学入試センター「大学入学共通テスト」https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/ 文部科学省「高校生のための学びの基礎診断」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/1393878.htm 東京都教育委員会「中学校英語スピーキングテスト(EAST-J)」https://www.tokyo-portal-edu.metro.tokyo.lg.jp/speaking-test.html</p>	<p>3時間</p>
<p>第4回</p>		
<p>授業内容</p>	<p>児童生徒の新しい教育(2)</p> <p>(学修活動)</p>	

	<p>新学習指導要領の方針と併せ、2019年度に「高校生のための学びの基礎診断」、2020年度に「大学入学共通テスト」、2022年度に東京都の「中学校英語スピーキングテスト」が開始された。その出題内容や課題を整理し、これからの中等教育に求められる教育内容や指導方法について討論する。</p> <p>(学修目標) 現行学習指導要領の実施に伴う各種入学試験等の導入から、新しい中等教育の学習内容及び学習指導の方法を理解する。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修] 授業で分析した3つの学力テストについて、討論を踏まえて感想(400字程度)をまとめ、提出する。</p> <p>[次回事前学修] 次回用の配布資料(いじめ防止対策推進法、東京都いじめ防止対策基本方針他)から、学校でのいじめ問題の発生を想定し、指導方法を検討しておく。</p>	3時間
第5回		
授業内容	<p>生徒指導のロールプレイング</p> <p>(学修活動) DVD視聴。具体的な事例として学校でのいじめ事件を設定し、教員として問題解決の手順を想定する。実習校での経験を交え、クラスメートと望ましい生徒指導について意見を交換する。法令上の解釈、裁判事例を学ぶ。</p> <p>(学修目標) 的確な生徒指導に必要とされる各種法令、判例を把握する。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修] いじめ行為についての法解釈、犯罪性、被害者の人権保障、事態の予見可能性等を踏まえ、「望ましい生徒指導」について意見レポートを作成(400字程度)し、提出する。</p> <p>[次回事前学修] 次回用配布資料(モンスターペアレントについて)に目を通しておく。</p>	3時間
第6回		
授業内容	<p>外部対応のロールプレイング</p> <p>(学修活動) DVD視聴。具体的な事例として、いわゆるモンスターペアレント対応を設定し、教員として問題解決の手順を想定する。実習校での見聞を交え、クラスメートと適切な保護者対応について意見を交換する。法令上の解釈、裁判事例を学ぶ。</p> <p>(学修目標) 的確な保護者対応、地域住民対応に必要とされる各種法令、判例を把握する。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修] 「適切な保護者対応」について、授業での意見交換を踏まえ、レポート(400字程度)を作成・提出する。</p> <p>[次回事前学修] 次回用配布資料(学校での個人情報保護について)に目を通しておく。 文科省「教職員の懲戒処分等について」の関連統計データを確認しておく。以下のウェブサイト参照。 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinji/1331014.htm</p>	3時間
第7回		
授業内容	<p>教員の服務に関わるロールプレイング</p> <p>(学修活動) DVD視聴。具体的な事例として、教員の情報漏洩事件を設定し、教員として事件を未然に防ぐ方法や問題解決の手順を想定する。 教育委員会の管理規則や実習校の服務規程や見聞したことを交え、また法規を参照しながら、クラスメートと教員としての守秘義務、個人情報の保護のあり方について意見を交換する。 政府資料から、情報漏洩による教員の懲戒処分について詳細を学ぶ。</p> <p>(学修目標) 児童生徒の個人情報に関する教員の守秘義務及び情報管理の重要性を理解する。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修] 個人情報保護法、地方公務員法や教育公務員特例法の教員の服務に関する規定を再確認する。 「教員の守秘義務と倫理観」をテーマに、授業での意見交換を踏まえ、レポート(400字程度)を作成・提出する。</p> <p>[次回事前学修] 配布資料(会議の進め方、議事録の作成方法について)に目を通し、ICT機器など(レコーダ、マイク、スマートフォン、PC、インターネット)の活用方法を検討しておく。</p>	3時間
第8回		
授業内容	<p>全体討論</p> <p>(学修活動)</p>	

	<p>学校として個人情報保護の方法を検討する。実際の委員会や職員会議に擬して、役割分担をし討論を進め、議事録を作成する。記録の取り方や保存方法にICT機器、各種アプリケーションソフトウェアの活用を工夫する。</p> <p>(学修目標)</p> <p>学校における情報管理の仕組み及び使用するツールについて理解し、より良い活用方法について提案できる。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修]</p> <p>授業で行った討論の議事録を作成・提出する(A4 1枚に収める)。</p> <p>[次回事前学修]</p> <p>ゲスト講師の勤務校について、HPなどを閲覧し情報を入手しておく。</p>	3時間
第9回		
授業内容	<p>教育現場での様々な課題 ー生徒理解と指導の実際ー</p> <p>(学修活動)</p> <p>東京都内の公立中学校(あるいは高等学校)の校長を招き、都心部ならではの学校運営、生徒指導、学習指導の諸課題や改善の方策について伺う。</p> <p>実習校での経験や日誌等の記録を参照しながら、疑問点について講師の助言を受けて、生徒理解を深め指導技術の向上を図る。</p> <p>(学修目標)</p> <p>自身やクラスメートの実習校、ゲスト校長の学校の情報を比較し、様々な学校教育の実践に必要な指導力を理解する。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修]</p> <p>ゲストスピーカーの講義について感想レポート(400字程度)をまとめ、提出する。</p> <p>[次回事前学修]</p> <p>訪問見学先の学校について、HPなどを閲覧して情報を入手する。</p>	3時間
第10回		
授業内容	<p>学校訪問見学</p> <p>(学修活動)</p> <p>東京都内にある学校を訪問し、設備、教職員の配置と校務分掌、生徒の在籍状況、教材、教育理念や授業計画などを調査し、実際の授業を参観する。現場教員へのインタビューを行い、学校運営の特徴を確認し抱える課題を把握して、報告書を作成する。</p> <p>(学修目標)</p> <p>自身の教育実習校と比較し、学校運営上の様々な課題を理解し、改善策を提案できる。</p> <p>*今年度も新型コロナウイルス感染の危険性が心配される場合、学校訪問は見合わせる。代替として、近隣の公立学校のHPを分析する予定。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修]</p> <p>学校訪問の報告書(800字程度)を作成・提出する。</p> <p>[次回事前学修]</p> <p>模擬授業の準備をし、指導案を作成する。前週金曜まで担当教員に一部提出、教務課担当職員にクラス分の印刷と必要な教具の貸出しを依頼すること。次回の授業開始直前に、クラスメート全員へ資料を配布すること。なお、教育実習での研究授業(あるいは他授業)実践時の資料を活用して構わない。教務課(あるいは教育実習事前事後指導担当の大学教員)が資料を保管の場合は、臨時貸出しを依頼する。</p>	3時間
第11回		
授業内容	<p>授業計画と模擬授業(1)</p> <p>(学修活動)</p> <p>教員免許状取得予定の教科について、中学校/高等学校の学年と単元を設定し、作成した指導案を用い、指定された段階(部分)の模擬授業をおこなう。質疑応答を通して各々の課題を確認、改善点を整理する。「家庭」「美術」免許状取得予定者の模擬授業実施。4人程度を予定。</p> <p>(学修目標)</p> <p>教育実習時の自らの研究授業を振り返り、見出した問題点を模擬授業では改善できる。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>[事後学修]</p> <p>模擬授業担当者のみ、反省レポート(400字程度)を提出する。</p> <p>[次回事前学修]</p> <p>模擬授業の準備をし、指導案を作成する。前週金曜まで担当教員に一部提出、教務課担当職員にクラス分の印刷と必要な教具の貸出しを依頼すること。次回の授業開始直前に、クラスメート全員へ資料を配布すること。なお、教育実習での研究授業(あるいは他授業)実践時の資料を活用して構わない。教務課(あるいは教育実習事前事後指導担当の大学教員)が資料を保管の場合は、臨時貸出しを依頼する。</p>	3時間
第12回		
授業内容	<p>授業計画と模擬授業(2)</p> <p>(学修活動)</p>	

	<p>教員免許状取得予定の教科について、中学校／高等学校の学年と単元を設定し、作成した指導案を用い、指定された段階（部分）の模擬授業をおこなう。質疑応答を通して各々の課題を確認、改善点を整理する。「国語」「英語」免許状取得予定者の模擬授業実施。4人程度を予定。</p> <p>（学修目標） 教育実習時の自らの研究授業を振り返り、見出した問題点を模擬授業では改善できる。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>〔事後学修〕 模擬授業担当者のみ、反省レポート(400字程度)を提出する。</p> <p>〔次回事前学修〕 模擬授業の準備をし、指導案を作成する。前週金曜まで担当教員に一部提出、教務課担当職員にクラス分の印刷と必要な教具の貸出しを依頼すること。次回の授業開始直前に、クラスメート全員へ資料を配布すること。なお、教育実習での研究授業（あるいは他授業）実践時の資料を活用して構わない。教務課（あるいは教育実習事前事後指導担当の大学教員）が資料を保管の場合は、臨時貸出しを依頼する。</p>	3時間

第13回		
授業内容	<p>授業計画と模擬授業（3）</p> <p>（学修活動） 教員免許状取得予定の教科について、中学校／高等学校の学年と単元を設定し、作成した指導案を用い、指定された段階（部分）の模擬授業をおこなう。質疑応答を通して各々の課題を確認、改善点を整理する。「社会」「地理・歴史」「公民」ほか免許状取得予定者の模擬授業実施。4人程度を予定。</p> <p>（学修目標） 教育実習時の自らの研究授業を振り返り、見出した問題点を模擬授業では改善できる。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>〔事後学修〕 模擬授業担当者のみ、反省レポート(400字程度)を提出する。</p> <p>〔次回事前学修〕 教育実習時に用いた教科書の出版社を確認し、そのウェブサイト上の年間教育計画案を印刷し目を通しておく。 配布資料（旧年度履修学生が作成した年間指導計画の各種サンプル）に目を通しておく。</p>	3時間

第14回		
授業内容	<p>年間授業計画の構想</p> <p>（学修活動） 年間授業計画を作成・公開する法的根拠を確認し、配布のサンプルや教科書会社のウェブ上のモデル案を参考にしながら、教育実習校で指導を担当した学年・教科の年間授業計画の構成を理解し、自ら計画を作成する。</p> <p>（学修目標） 教員が年間授業(教育)計画を立てる目的と意義を理解する。</p>	
事後学修・次回事前学修	<p>〔事後学修〕 学習指導要領、サンプル資料及び教科書を分析しながら、年間指導計画を検討し作成する(A4版 原則1枚、形式・書式は任意)。 教職履修カルテの必要事項を記入し、完成させる。</p>	5時間以上

評価の基準	S	A	B	C	D	X
	100～90点	89～80点	79～70点	69点～60点	59点以下	—
	到達目標を超えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している	単位修得目標を達成している	単位修得目標を達成できていない	受験資格無、レポート・課題未提出等

評価の方法と配分	<p>筆記試験は実施せず、授業への参加意欲や貢献度による平常点(発言・質問の頻度、討論でのリーダーシップ 30%)及び提出されたレポート等(各回レポートの正確性、論理性、授業案及び授業実践の完成度、各種提出期限遵守の程度 70%)により、以下のS-Dの総合的な評価を行う。したがって、本授業では概ね各回に教員として必要とされる技能の達成度を評価する。また、学生は添削・返却された提出物をファイルし、各回のリアクションリアクションペーパーを作成・提出して、あるいは授業実践への教員のコメントを読み、自己の到達度と課題を確認・省察することが求められる。</p> <p>S:100～90点、A:89～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59点以下、X:受験資格無、レポート・課題未提出等</p> <p>要求されるレポート等の全提出をもって単位認定の対象となる。 なお、学校見学に不参加の場合には、履修放棄とみなす。</p>
評価基準ルーブリック	

テキスト	特に指定しない。授業内で適宜資料を配布する。
------	------------------------

参考文献・参考Webサイト等	授業内で適宜案内する。
----------------	-------------

課題図書

履修者へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none">●教育実習時に、必ず教科書を購入しておくこと。また、実習校の年間教育計画（担当教科分）を入手しておくこと。●模擬授業の担当は、履修学生数や各学部の子定等を勘案し調整する予定である。●履修学生数により、第8回は割愛、第9,10回は学校訪問見学で統合する可能性あり。●招聘講師や訪問予定の学校の都合、履修学生の子時間割の状況により、第9,10回の子程・時程は大きく変更される可能性あり。柔軟なスケジュール調整をお願いしたい。こちらは、講師の事情により中止になる場合もある。●学校訪問の子程は10月初旬までに決定し、kyonetで掲示案内する予定。訪問時はスーツの要着用。こちらは、学校の事情により中止あるいは延期になる可能性あり。 <p>本授業は、大学構内の教室にて対面形式で行う。ただし、今後の新型コロナウイルス他の感染拡大や大学の判断により変更になる場合があるので、ご理解頂きたい。</p>
------------	---

研究科長・学部長・科長 殿
共通教育センター長 殿

共立女子大学・共立女子短期大学
学長 川久保 清

2024年度シラバスチェックの実施について（依頼）

本学のシラバスは、各研究科・学部・科の教育課程の編成方針に基づいて各授業科目の到達目標や各回の内容等を明確に示すことで、学生が履修科目を選ぶ際の参考とすることのほか、学生に事前学修・事後学修の指示を与え、授業全体の見通しをもって準備学修ができるようにし、授業開始後の学修の指針として継続して使用することを目的として作成しています。

現在、各部門でシラバスチェックを実施していただき、多くのシラバスが改善されていることに感謝申し上げます。各研究科・学部・科、共通教育センター（以下、各部門）におかれましては、シラバス作成の趣旨を踏まえて下記の通り、シラバスチェックを実施していただくようお願いいたします。

記

1. チェックの対象（2024年度シラバス）

- ・研究科・学部・科の専門教育科目の全てのシラバス
- ・教養教育・資格関連科目の全てのシラバス

2. 実施期間

2023年12月22日（金）～2024年3月31日（日）

※上記の期間中に「シラバス執筆」および「シラバスチェックの実施」をお願いします。細かいスケジュールについては、「4. 「シラバスチェック管理者の選出」および「チェック体制と実施フローの検討」について」の通り、各部門でご確認ください。

3. 実施方法

- ①各部門の希望日時点の「シラバス（PDFデータ）」を事務局よりお送りします。
- ②「シラバスチェック確認リスト」に基づき、第三者（当該授業担当者以外の教員）によるシラバスのチェックを行い、「シラバスチェックシート（所定のスプレッドシート）」に適正/不適正・問題点（改善要望事項）を記載する。不適正と判断したシラバスについて、必要に応じて各部門にて授業担当教員に加筆・修正を依頼する。
- ③各部門の最終的なチェック結果を「シラバスチェックシート」にとりまとめて、学長に実施結果の報告をする。

（学長への報告方法）

締切日：2024年4月1日（月）

提出物：シラバスチェックシート

提出方法：高等教育開発センター宛にメールで提出方法

education_center.gr@kyoritsu-wu.ac.jp

4. 「シラバスチェック管理者の選出」および「チェック体制と実施フローの検討」について

各部門において、以下の点について選出および検討をし、その結果を12月22日（金）までに、高等教育開発センターまでご連絡ください。

- ①シラバスチェック管理者1名を選出（所属長以外の専任教員）

②各部門での「チェック体制と実施フロー」および「非常勤講師やネイティブ教員へのサポート方法」について検討

※各部門とは、各研究科、学部、科、共通教育センターのことを指します。

※家政学部は学科毎に、家政学研究科は各研究科毎にご検討ください。

※シラバスチェックに関する連絡事項は、各部門長（学部長・科長）に加えて、今回ご選出いただくシラバスチェック管理者の先生方に、高等教育開発センターよりKyoritsuGmailでご連絡します。

5. 関連資料

- ・シラバスチェック確認リスト
- ・シラバスチェックの流れ
- ・シラバスチェックシート（記入例）
- ・シラバスチェック実施体制（各部門用）

6. その他

本学では、2024年度に大学の認証評価を受審する予定です。

以上

シラバスチェック確認リスト (シラバスチェック用)

※変更箇所＝赤字

各授業科目のシラバスについて、「学生が主体的に学修するための基本資料になっているか」という視点で、以下のチェック項目を基にシラバスチェックをお願いします。「適切な例」「修正が求められる例」は参考例です。記載内容に不備がある場合は、「シラバスチェックシート」の問題点(改善要望)に記載し、各研究科長・学部長・科長、共通教育センター長より授業担当者に改善要望してください。

【1. 執筆開始前に学部・科等でチェックする項目】

※執筆前に確認いただく項目で、「シラバスチェックシート」には含みません。

①「カリキュラムマップ」「科目概要」「到達目標(成績評価A)」「単位修得目標(到達目標C)」「授業区分」について：到達目標と単位修得目標は、教育課程の編成方針、科目概要に照らし、適切に設定されているか

・各目標には、当該科目に関係するDPとの対応が明示されているか

(適切な例)

科目概要	栄養学は、栄養学分野の専門家を志す者にとって、重要な第一歩にあたる基幹となる科目である。今後履修する応用系専門科目を習得する上で必要とされる基本的な栄養学の知識をここで身につける。本授業では、生化学、解剖生理学の基礎も含めた栄養学の基礎を学ぶ。栄養とは何か、その意義についてしっかり習得する。五大栄養素の構造と機能、栄養素の消化吸収と代謝の基礎、遺伝子栄養の基礎、食欲の調節、エネルギー代謝についての理解を目指す。
到達目標(成績評価A)	1)看護を構成する主要要素(生活者、健康、環境、看護)について明確に説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 2)看護の歴史の変遷を概観し、看護と社会のかわりや看護の専門性について明確に説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 3)主要な看護理論について明確に説明できるようになる。 4)看護の機能と役割、ならびに看護に関する法や教育制度を説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 5)看護の役割と機能について明確に説明できるようになる。(コミュニケーション能力、看護技術)
単位修得目標(成績評価C)	・ビジネス学部4年間で学修する内容の全体像や「経営」「マーケティング」「経済」「会計」の各分野を学ぶ目的及び学問体系についてしっかりと理解する。(知識・理解)◎ ・自分が興味を持った最近のビジネスの問題について明快に説明ができ(関心、表現)、「経営」「マーケティング」「経済」「会計」「法」「情報・統計」の少なくとも一つ分野の立場からの簡単な解説を行うことができる。(知識・理解、思考・判断・表現)◎

【2. 執筆後にシラバスチェックフォーマットを用いてチェックする項目】

※「シラバスチェックの実施について(依頼)」にてご依頼した内容です。

②『授業の進め方の概要』について：教育課程の編成方針、科目概要、到達目標等に照らし、適切に設定されているか

・当該科目概要の趣旨に合致しているか

・当該授業で学修する内容について、その概要が分かりやすく説明されているか

(適切な例)

授業の進め方の概要	本授業を通じてレポートの書き方について学びます。 毎回の授業で、kyonetクラスプロファイルより課題を提示します。 締切期限までに必ず提出してください。 みなさんから提出された課題にコメントを付けたものをフィードバックします。 フィードバックの内容を確認し、どのように修正すれば良いのかを考え、レポートのブラッシュアップをしてきましょう。
-----------	--

(修正が求められる例)

授業の進め方の概要	毎回、講義とレポートの作成を行います。
-----------	---------------------

③『各回の授業内容』について：
各回の授業内容は、科目概要、到達目標等に照らし、適切に設定されているか

・1回目の授業内容に、「この科目の到達目標、カリキュラムマップに記載のディプロマ・ポリシーとの対応関係、履修系統図を用いた当該科目の教育課程上の位置付けとその後の履修の流れを説明します。」の文言がそのまま記載されているか ※1

・各回の学修内容が、「主題」(テーマ)・「学修目標」(学生が何を学ぶことが期待されるか)・「学修活動」(目標達成のためにどんな活動を行うか)の3つの観点により具体的に記載されているか。 ※2

・授業内容が「試験」「テスト」などの記載だけになっていないか

・授業内容に「定期試験」という記載がないか

(適切な例)

授業内容	<p>【主題】人が学ぶプロセスとその仕組み 人がものごとについてより良い説明ができるようになる過程では、頭や心の中でどんなことが起こっているか、また周りの人や環境がどのようにその過程に影響するのかを学びます。</p> <p>【学修目標】簡単な問題解決場面を事例として、第X-Y回の内容をふまえ、人が学ぶプロセスとその仕組みについて説明できる</p> <p>【学修活動】主題に関する認知科学の基礎講義を聴き、講義とこれまでの授業内容をもとに、グループワークにより主題に即したポスターを作成し、ワールドカフェ方式で協議を行う。授業の最初と最後に個人でウォームアップと振り返りの課題に取り組み、学修を整える。</p>
------	---

(修正が求められる例)

授業内容	レポートを書く
授業内容	第3章 環境問題について
授業内容	テキスト P●(主題、動詞、名詞、代名詞)

※1 大学院科目も2024年度より対象とします。

※2 テキストを使用する場合、テキストの章やページ数のみを記載する等は望ましくありません。その回に学生は何を学ぶことができるのかという観点で、学修目標、学修内容、授業方法等が具体的に記載されているか確認ください。

④『事前学修・事後学修』について：事前学修・事後学修の内容は、適切に設定されているか

・事前学修・事後学修の内容が具体的に示されているか

(適切な例)

事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返り(〇〇について)をkyonet小テストに提出する。 各グループで今後の目標、役割分担、活動計画を整理する。 提示されたテーマに関するアイデアを個人で考えておく 	4時間
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> テキストP●を熟読し、〇〇の観点到整理しレポートを作成する。 次回の授業内での発表をし、最終的にはレポートを提出していただきます。 	1時間

(修正が求められる例)

・事前学修・事後学修に要する時間が示されているか ※3

事後学修・次回事前学修	授業内容の復習 次回授業の予習	1時間
事後学修・次回事前学修	テキストに目を通す	0.5時間
事後学修・次回事前学修	テキスト「〇〇」「●●」「△△」の復習と予習	2時間

※3 事前学修・事後学修に要する時間の集計・確認までは不要です。ただし、単位制度の考え方では、1単位の修得に必要な学修時間は、授業と事前学修・事後学修をあわせて45単位時間(本学では1単位時間=45分として運用)です。単位制度の実質化の観点で記載されているかを念頭におきつつご確認ください。

⑤『評価の方法と配分』について：評価の方法と配分が明確に示されているか

- ・到達目標、授業の進め方の概要、各回の授業内容が、「評価の方法と配分」に適切に対応しているか
- ・①試験②レポート③(授業内)小テスト・小レポート④平常点⑤その他の評価方法から2項目以上選択し、それぞれの割合が記載されているか

・「出席状況、出席率そのものが評価の対象になる」旨の記載がないか

(適切な例)

評価の方法と配分	<ul style="list-style-type: none"> ・課題(個人課題・グループ課題)【50%】 ・平常点(学修意欲、履修態度、事前・事後学修の状況)【20%】 ・授業参画度(グループ活動への貢献度、リーダーシップ発揮)【20%】 ・小テストの結果【10%】
----------	---

(修正が求められる例)

評価の方法と配分	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況 70% ・平常点(学修意欲、履修態度、事前・事後学修の状況、出席状況)30%
評価の方法と配分	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況 40% ・平常点(学修意欲、履修態度、事前・事後学修の状況)30% ・中間試験 30% <p>※遅刻ならびに欠席は減点の対象になります。</p>

・※ルーブリック必須科目(アセスメント科目)のみ※
ルーブリックがシラバスに公開されているか(教養教育科目の一部、オンデマンド型授業、アセスメント科目は必須)

シラバスチェックの実施体制について ※赤字は昨年度からの変更点

2024年度（新）

日程	学長	各部門 (研究科、学部、科、全学 共通)	授業担当者
12月22日～			シラバス執筆開始
12月22日～ 2024年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> 学長から各部門にシラバスチェックの実施依頼 必要に応じて事務局より、執筆途中のシラバスを各部門に共有 	<p>※シラバスチェック管理者および部門長を中心に以下の対応をお願いします。</p> <p>各部門にてシラバスチェックの実施 ↓ 各部門より、シラバスチェックの結果を踏まえて、不適切なシラバスの授業担当者に書き直しを依頼 ↓ (授業担当者による書き直し) ↓ シラバス書き直しの反映状況を確認 ↓ シラバス書き直しの反映状況を踏まえて、不適切なシラバスの授業担当者に、再度、書き直しを依頼 ↓ (授業担当者による書き直し) ↓ 必要に応じて上記を繰り返す</p>	<ul style="list-style-type: none"> シラバス書き直し（該当者のみ） 3/下旬～シラバス公開（公開後適宜書き直し可能）
4/1		学長にシラバスチェックの実施状況を報告（シラバスチェックシートを提出）	
4/2以降	各部門からあがってきたシラバスチェックの実施結果を確認。必要に応じて改善指示		シラバス書き直し（該当者のみ）

2023年度（旧）

日程	学長	各部門 (研究科、学部、科、全学 共通)	授業担当者
12月23日～			シラバス執筆開始
2023年 3月4日	学長から各部門にシラバスチェックの実施依頼		
2023年 3月4日～3月31日	必要に応じて事務局より、執筆途中のシラバスを各部門に共有	<p>※シラバスチェック管理者および部門長を中心に以下の対応をお願いします。</p> <p>各部門にてシラバスチェックの実施 ↓ 各部門より、シラバスチェックの結果を踏まえて、不適切なシラバスの授業担当者に書き直しを依頼 ↓ (授業担当者による書き直し) ↓ シラバス書き直しの反映状況を確認 ↓ シラバス書き直しの反映状況を踏まえて、不適切なシラバスの授業担当者に、再度、書き直しを依頼 ↓ (授業担当者による書き直し)</p>	<ul style="list-style-type: none"> シラバス書き直し（該当者のみ） 3/18～シラバス公開（公開後適宜書き直し可能）
4/1		学長にシラバスチェックの実施状況を報告（シラバスチェックシートを提出）	
4/2以降	各部門からあがってきたシラバスチェックの実施結果を確認。必要に応じて改善指示		シラバス書き直し（該当者のみ）

シラバスチェックシート(記入例) ※チェック項目の変更に伴う更新あり
 ※シラバスチェックの結果を赤線内にご記入ください。

1「シラバスチェック確認リスト」はこちら
https://drive.google.com/file/d/1st4m1Jm_MXQRByYKqDumI_Zw00_JaONM0/view?usp=sharing

					チェック結果										指摘事項 修正済み								
① ② ③ ④ ⑤ ※特に修正を要する項目がない場合は○を記入ください。その場合「不修正」の欄は空欄で構いません。 不修正 ※「シラバスチェック確認リスト」の項目②～⑤を参照のうえ、修正が必要な場合は×を選択してください。					② 授業の進め方の概要		③ 各回の授業内容				④ 事前学修・事後学修の内容		⑤ 評価の方法と配分				その他			(不修正の場合のみ) ※担当教員によってシラバスが修正された場合は○をご記入ください。			
					科目概要の趣旨に合致しているか	学修する内容が分かりやすく説明されているか	1回目の授業内容に、「この科目の到達目標、カリキュラムマップに記載のデプロマ・ポリシーとの対応関係、履修系統図を用いた当該科目の教育課程上の位置付けとその後の履修の流れを説明します。」の文章がそのまま記載されているか	各回の学修内容が「主題」(テーマ)「学修目標」(学生が何を学ぶことが期待されるか)「学修活動」(目標達成のためにどんな活動を行うか)の3つの観点により具体的に記載されているか	授業内容が「試験」「テスト」などの記載だけにないか	授業内容に「定期試験」という記載がないか	事前学修・事後学修の内容が具体的に示されているか	事前学修・事後学修に要する時間が示されているか	到達目標、授業の進め方の概要、各回の授業内容が、「評価の方法と配分」に適切に対応しているか	①試験②レポート③(授業内)小テスト④平常点⑤その他の評価方法から2項目以上選択し、それぞれの割合が記載されているか	「出席状況、出席率」そのものが評価の対象になるかの記載がないか	ルーブリック必須科目がシラバスに公開されているか(教養教育科目の一部、オpendメント授業、アセスメント科目は必須)	左記以外の不備はないか ※不備があった場合は「特記事項」の欄にご記入ください						
授業コード	授業科目名	授業担当者 教職員番号 (代表教員)	授業担当者 名 (代表教員)	チェック担当 者名 ※チェックした担当教員名を記入してください。																			
10001	基礎ゼミナール-01	●●●●	●●●●	▲▲▲▲			×																
10002	基礎ゼミナール-02	□□□□	□□□□	▲▲▲▲	○																		
10003	基礎ゼミナール-03	△△△△	△△△△	■●●●							×												○
10004	基礎ゼミナール-04	◆◆◆◆	◆◆◆◆	■●●●	×						×												
10005	基礎ゼミナール-05	××××	××××	■●●●	○																		
10006	基礎ゼミナール-06	◎◎◎◎	◎◎◎◎	■●●●																			×
10007	基礎ゼミナール-07	◆◆◆◆	◆◆◆◆	■●●●																			×

1 1回目の授業内容に、「この科目の到達目標、カリキュラムマップに記載のデプロマ・ポリシーとの対応関係、履修系統図を用いた当該科目の教育課程上の位置付けとその後の履修の流れを説明します。」の文章がそのまま記載されていない
 ・授業内容が「試験」「テスト」などの記載だけになっている
 ・事前学修・事後学修の内容が具体的に示されていない
 ・①試験②レポート③(授業内)小テスト④平常点⑤その他の評価方法から2項目以上選択し、それぞれの割合が記載されていない
 ・「出席状況、出席率」そのものが評価の対象になる」旨の記載がある

・授業内容に「定期試験」という記載がされている

・当該科目概要の趣旨に合致していない
 ・授業内容が「試験」「テスト」などの記載だけになっている
 ・事前学修・事後学修の内容が具体的に示されていない

・ルーブリック必須科目がシラバスに公開されていない(教養教育科目の一部、オpendメント授業、アセスメント科目は必須)